

平成25年度（2013年度）

情報活用能力育成の あり方に関する研究

平成25年度は箕面市教育センターの教育研究の一項目として、昨年度に引き続き「児童・生徒の情報活用能力をどのように向上させるか」に研究の目的を絞り実践的研究を行った。

〈研究員〉

福田 早織 箕面市立箕面小学校
小谷 周平 箕面市立萱野小学校
田尾 真一 箕面市立北小学校
五十嵐 直人 箕面市立南小学校
杉森 由紀子 箕面市立西小学校
川崎 和子 箕面市立東小学校
矢吹 岳大 箕面市立東小学校
江見 あゆみ 箕面市立西南小学校
安達 隆史 箕面市立萱野東小学校
井田 淳子 箕面市立豊川北小学校
吉村 淳史 箕面市立中小学校
中山 由香利 箕面市立豊川南小学校
丸山 智美 箕面市立萱野北小学校

國廣 幸一 とどろみの丘学園
(箕面市立止々呂美小学校)
鈴木 俊弘 箕面市立第一中学校
辻尾 翔太 箕面市立第二中学校
天岸 大輔 箕面市立第三中学校
小林 哲也 箕面市立第四中学校
落合 恭平 箕面市立第五中学校
谷田 奈央彦 箕面市立第六中学校
吉永 章人 彩都の丘学園
(箕面市立彩都の丘中学校)

〈スーパーバイザー〉

園田学園女子大学 未来デザイン学部 堀田博史 教授

はじめに

箕面市では平成21年度末に小中学校のコンピュータ教室のコンピュータを全台更新し、同時に電子黒板や実物投影機等のICT機器を多数導入することによりICT環境の整備を行った。また平成22年度から平成23年度の教育研究においては、教師の授業力向上のためにICT機器をどう活用するかを主な目的として研究を行ってきた。

その研究の成果として、教員のICT機器を利用した授業力の向上が一定図れた。そこで昨年度は、児童・生徒の情報活用能力をどのように向上させるかに主眼を移して研究を行った。今年度は、昨年度作成した情報活用能力育成カリキュラム案をもとに、児童・生徒の情報活用能力を向上させる授業実践を積極的に行うこととした。

I 研究テーマの設定について

「情報活用能力育成のあり方に関する研究」

- ・児童・生徒の情報活用能力をどのように向上させるか

II 研究の方法

スーパーバイザーとして園田学園女子大学の堀田博史教授に年間を通してご指導いただきながら、次のように研究を行った。

III 研究内容

<第1回 6月5日>

- ・今年度の研究の流れを確認
- ・「児童・生徒の情報活用能力の育成」について
- ・今年度の研究仮説の設定について
グループ討議

<第2回 7月31日>

- ・夏季研修として、研究員以外の教員を交え情報教育カリキュラムについて交流
- ・情報活用能力育成のための指導素案に向けて

<第3回までに>

- ・実践授業を想定した「情報活用能力育成のための指導計画（案）」の作成

<第3回 10月4日>

- ・研究員の指導案について交流
- ・グループワークにより現状や課題、つけるべき能力等について意見交換

<第4回 11月20日>

- ・「情報活用能力育成のための指導計画（案）」の交流
- ・小中学校ごとに実践授業の交流に向けた発表者の決定
- ・発表者以外は、2月までに各自指導案を作成し実践授業を行う

<第5、6回までに>

- ・指導案（研究紀要用：成果と課題も記入）を作成

<第5回 3月5日>

豊川北小学校 公開授業

- ・研究授業、事後研究協議
- ・年間総括

<第6回 3月7日>

第3中学校 天岸研究部員 公開授業

- ・研究授業、事後研究協議
- ・年間総括

<小学校1つ、中学校1つの実践授業>

- ・それぞれのグループ毎に公開授業を行い、公開授業後研究部会を開催

公開授業

◇小学校 公開授業

豊川北小学校 6年1組<3月5日>

井田研究部員

◇中学校 公開授業

第三中学校 3年E組<3月7日>

天岸研究部員

【別紙資料】

- ・情報活用能力育成のための授業研学習指導案

IV 研究の結果

□情報活用能力育成カリキュラム案に基づく授業実践

今年度、第一回で「児童・生徒の情報活用能力の育成」について、スーパーバイザー堀田教授にご講演いただき、イメージを持つとともに、昨年度の研究員が作成した情報活用能力育成カリキュラム案をもとに、今年度授業研究を進めていくことを確認した。

2回目の研究部会では夏季の研修を兼ねて、研究員や参加者によるワークショップ形式で、「研究仮説及び授業仮説の立て方」についてグループ討議した。そこで、「情報活用の段階を意識した指導計画を立て、それぞれの段階に応じた具体的手立てを組み込んだ授業を、発達段階に応じて、経年で指導していくことで義務教育終了段階で社会に出ても活用できる情報活用能力の育成が図れるだろう」という授業仮説とその仮説に基づいた授業仮説を作成し、「情報活用能力育成のための授業研学習指導案フォーマット例」に則った指導案を作成することも確認した。

その後の2回の研究会では、仮説に基づいて作成した授業指導案を全員が持ち寄り、全体で事前の研究協議を行った。

その結果を受けて、小中学校の2グループに分かれて、それぞれの代表授業者を決定し、代表者の授業指導案についての研究協議を行った。その協議結果を活かしながら小中学校別に研究授業を実施し、事後研究協議及び年間総括を行った。

その中で、児童・生徒たちに一定情報活用能力の育成を図ることはできたが、平成27年度(2015年度)にめざす「一人一台のタブレット端末」を見すえたとき、児童・生徒たちに情報活用能力育成をどのように進めていくべきなのか、ということについては来年度の課題であるということが認識された。

また、情報活用能力の育成にICTを必ず使う必要性はないこと、いわゆるデジタルの教材とアナログの教材のそれぞれの良さを考慮しながら、その組み合わせを考えていく必要があることも確認された。

その際ICTはあくまで、児童・生徒たちが教科などのねらいを達成させるための道具である、ということだけは、常に意識しておく必要がある。ICTは、目的ではない。教員は、その単元や教材の目標やねらいを明確にして、それにせまるためにICT活用が本当に必要なのか、有効的手段であるのかを見極める力を持っておかなければ、児童・生徒たちに本当の情報活用能力を育成させることはできない、ということが確認された。

V 研究のまとめ

スーパーバイザー 園田学園女子大学 教授 堀田博史

これからの社会を生きていくために、児童・生徒にどのような力が必要でしょうか？

教育現場に携わる皆さんだと、おそらく「生きる力」と言われるでしょう。「生きる力」は、簡単にまとめますと、(1)基礎的な知識・技能を習得し、それらを活用して、自ら考え、判断し、表現することにより、さまざまな問題に積極的に対応し解決する力、(2)自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性、(3)たくましく生きるための健康や体力 と言えます。

(http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/pamphlet/20080328/01-16.pdf より引用)

これら、児童・生徒に生きる力を育てるために、教師にはどのような指導力が必要なのでしょう。私は、特に(1)に記載されています、「自ら考え、判断し、表現することにより、さまざまな問題に積極的に対応し解決する」ために、教師が ICT も活用する姿を見せること、そして児童・生徒にも ICT を活用する場を設けることが必要だと思います。

小学校学習指導要領の総則には、各教科等の指導に当たって、「児童がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段に慣れ親しみ、コンピュータで文字を入力するなどの基本的な操作や情報モラルを身に付ける」とともに、情報手段を「適切に活用できるようにするための学習活動を充実する」と記載があります。同じく、中学校学習指導要領の総則にも、各教科等の指導に当たって、「生徒が情報モラルを身に付ける」とともに、「コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を適切かつ主体的、積極的に活用できるようにするための学習活動を充実する」とあり、教師が ICT も活用することの必要性を述べています。

授業で ICT 活用（タブレット端末を除いた）する場面（順不同）は、おおよそ以下のようにまとめることができます。①・②・③の空欄は、活用頻度の高い場面が入ります。何が入るか考えてみてください。

- | | | | |
|----------------------------------|------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------|
| <input type="checkbox"/> ①[|] | <input type="checkbox"/> 体験の想起（振り返り） | <input type="checkbox"/> 体験の代行 |
| <input type="checkbox"/> 課題の提示 | <input type="checkbox"/> ②[|] | <input type="checkbox"/> 手順の説明 |
| <input type="checkbox"/> 情報の共有 | <input type="checkbox"/> 比較 | <input type="checkbox"/> 資料の提示 | |
| <input type="checkbox"/> 児童の説明資料 | <input type="checkbox"/> モデルの提示 | <input type="checkbox"/> 失敗の提示 | |
| <input type="checkbox"/> スキルの定着 | <input type="checkbox"/> 繰り返しによる定着 | <input type="checkbox"/> 知識の確認 | |
| <input type="checkbox"/> ③[|] | | |

①には、授業の[動機付け]として、電子黒板やスクリーンに動画やコンテンツなどを提示する場面が多いのです。②は、[視点の統一]です。同じく電子黒板やスクリーンに、実物やデジタルコンテンツを写しだし、子どもの視点を集中させるのです。③

は、[指示の明確化]です。例えば、実物投影機に教科書を写しただけではなく、拡大して焦点化、そして指さすことで指示を通すことをします。

上記の場面をすべて、授業に取り入れる必要はありません。いくつかの場面を授業で試行することで、子どもの反応を確認してください。きっと、ICT活用の効果を実感できます。

次に、タブレット端末を含めたICT活用場面では、新たに2項目が追加され、以下のようにまとめることができます。

- | | | |
|----------------------------------|---|---|
| <input type="checkbox"/> 動機付け | <input type="checkbox"/> 体験の想起（振り返り） | <input type="checkbox"/> 体験の代行 |
| <input type="checkbox"/> 課題の提示 | <input type="checkbox"/> 指示の明確化 | <input type="checkbox"/> 手順の説明 |
| <input type="checkbox"/> 情報の共有 | <input type="checkbox"/> 比較 | <input type="checkbox"/> 資料の提示 |
| <input type="checkbox"/> 児童の説明資料 | <input type="checkbox"/> モデルの提示 | <input type="checkbox"/> 失敗の提示 |
| <input type="checkbox"/> スキルの定着 | <input type="checkbox"/> 繰り返しによる定着 | <input type="checkbox"/> 知識の確認 |
| <input type="checkbox"/> 視点の統一 | <input checked="" type="checkbox"/> 協働学習の強化 | <input checked="" type="checkbox"/> 思考の見える化 |

ひとつめは、授業でタブレット端末を活用することで、グループでの共同作業の時間が増加します。[協働学習が強化]されるのです。しかし、45分や50分の授業時間内に、グループの共同作業時間が増えると、何らかの作業時間を短縮しないといけません。指示を通す場面や知識を確認する場面などでICT活用することで短縮に繋がります。

ふたつめは、電子黒板や授業支援システムを活用して、思考過程を簡単に可視化できるようになりました。結果だけではなく、児童・生徒がどのように考えているかを知ることができます。

もちろん、これだけではなく、タブレット端末の有用な場面はたくさんあります。次年度以降、箕面市にも徐々にタブレット端末が導入されることでしょう。すでに導入経験のある萱野小学校やとどろみの森学園の事例をぜひ共有してください。

箕面市教育センターでは、2011年度から2013年度の3年間、教育研究テーマを「児童・生徒の情報活用能力の育成」に絞り、研究を進めてきました。私もご一緒できたことを喜んでいきます。

その成果物として、「箕面市情報教育カリキュラム（案）」を作成されたとともに、指導案にどのような情報活用能力を育むかを意識する、以下の分類の記載を位置づけたことが上げられます。

- (1) あつめる／様々なメディアや人からの情報収集能力
- (2) とらえる／情報の選択・分析
- (3) まとめる／情報の加工と編集
- (4) 伝える／目的や意図に応じて、様々な形でプレゼンテーションする
- (5) 交流する／人と対話し練り上げる
- (6) 振り返る／自分の情報活用について振り返る

児童・生徒が、社会で生きていくために、発達段階に応じた情報活用能力を育成していくことが必要です。この3年間の研究成果を、ぜひ今後も継続して活用し、さらにタブレット端末を含むICT活用の実践にチャレンジ、情報共有しあえる学習集団になることを願っています。

おわりに

昨年度作った箕面市版の情報活用能力育成カリキュラム案をもとに研究員各自が研究仮説や授業仮説に基づいて、情報活用能力の育成を意識した指導案を作成し実践授業を行うことにより、情報活用能力の育成のあり方について研究を重ねた。

来年度は、全クラスに配置する電子黒板や今年度末2校に配置されたタブレット端末の活用実践状況などを見ながら、電子黒板やタブレット端末をどのように使うことで、効果的に情報活用能力を育成していくのかということを中心に研究していく必要がある。

情報活用能力育成のための授業研

学習指導案

第3学年 社会科学習指導案

箕面市立箕面小学校

指導者 福田 早織

- 1 日時 平成25年10月15日(火) 2時間目
- 2 学年・クラス 第3学年1組(男子16名 女子22名 計38名)
- 3 場所 3年1組教室
- 4 研究仮説
情報活用の段階を意識した指導計画を立て、それぞれの段階に応じた具体的手立てを組み込んだ授業を、発達段階に応じて、経年で指導していくことで義務教育終了段階で社会に出て活用できる情報活用能力の育成が図れるだろう。
- 5 授業仮説
教科書の挿絵だけでなく、実際のスーパーマーケットの写真も提示することで、絵や写真から必要な情報を読み取り、自分の経験も含めて考えながらスーパーマーケットの工夫を見つけることができる。
- 6 単元名 暮らしをささえるまちで はたらく人びと

7 単元設定の理由

(1) 教材観

本単元では、学習指導要領の内容(2)を扱い、地域の人々の暮らしを支える農作物や工業製品などの、生産や販売に関する仕事に携わっている人々が、それぞれの仕事の特色に応じて、他地域などとの関わりを持ちながら、様々な工夫をしていることを見学したり、調査したりして調べ、具体的に考えることができるようにすることを主なねらいとしている。

なお、この第一小単元では、販売に携わる人々を、第二小単元では、生産の仕事に携わる人々を取り上げている。その際、生産活動における原材料の仕入れ先や製品の出荷先、販売における製品の仕入れ先を調べる活動において、結びつきのみられる県や国の名称と位置を地図などで確かめる活動を行い、生産や販売を通して、自分たちの地域が県内だけでなく、国内の他の地域や外国とも関わりがあることに気付くように配慮して指導する必要がある。

(2) 児童・生徒観

本学級の児童は、学ぶことに対して意欲的な児童が多く、これまで、新しいことを学習したり、知らないことを調べたりすることに楽しみながら取り組んできている。1学期には総合的な学習で、図書館について見学・調査をして、調べたことを新聞にまとめる学習をしてきた。見学では積極的に質問をしたり、本や図鑑などを利用して図書館について調べたり、積極的に情報を集めて、それらをまとめる際には分かりやすいよう自分なりに工夫しようとする児童が多くみられた。

しかし、集めた情報をまとめるということに関しては、まだまだ情報の取捨選択も甘く、大事な部分が抜けてしまったり、単なる羅列になったりしてしまっている児童も多くいるのが現状である。

(3) 指導観

まず家での買い物調べにおいては、指定した商品について普段どこで買い物するのかを、家の人に聞いて表にまとめさせたい。その際、どこで買うのかだけでなく、どうして買うのかという理由も含めて調べさせ、その利点について深く考えさせる。また、住んでいる場所や、親戚とのつながりによる各家庭ごとの違いも認めさせたい。

また、スーパーマーケットの見学では、行く前に予想を立てたり、インタビューの内容について計

画を立てたりして、新聞にまとめるという見通しを持って取り組ませる必要がある。スーパーマーケットで買い物する人が多い理由について、どういった点が便利であり、工夫されているのかしっかりと考えさせたい。

そして、新聞にまとめる際には、自分が立てた予想に基づいて見学の結果をまとめ、スーパーマーケットの工夫や魅力について、分かりやすく表現させたい。そのため、実物の新聞なども参考にしながら、見出しや字の大きさ、絵や図の工夫など、読む相手を意識して書くよう指導していきたい。

- 8 単元目標
- ・地域の人々の販売や生産にかかわる仕事の様子や工夫について関心を持ち、それらを意欲的に調べることによって、それらが自分たちの生活を支えていること、またそれらの仕事に携わっている人々の工夫や、他地域と関わりがあることを、理解できるようにする。
 - ・地域の人々の販売や生産の仕事の様子や工夫などを、観察・調査して調べ、それぞれの仕事の特徴に応じた工夫について具体的に考える力や、調べたことや考えたことを表現する力を育てる。

- 9 評価規準
- (関心・意欲・態度)
- 地域の人々の販売や生産の様子に関心を持ち、意欲的に調べることを通して、地域の人々の販売や生産の仕事と自分たちの生活との関わりについて考えようとする。
- (思考・判断・表現)
- 地域の人々の販売や生産の仕事について学習問題や予想、学習計画を考え表現し、調べたことをもとに、地域の販売や生産の仕事に携わっている人々の工夫について考え、調べたことや考えたことを適切に表現している。
- (観察・技能)
- 地域の人々の販売や生産の仕事の特徴や国内外の他地域などとの関わりを見学、調査して具体的に調べるとともに、調べた過程や結果をノートや作品にまとめている。
- (知識・理解)
- 地域の販売や生産の仕事に携わっている人々の工夫や、それらの仕事は他地域とかわりがあることを理解している。

時数	情報活用能力の分類	内容	学習内容 (ねらい)	関	考	表	知	評価規準 評価方法
	あつめる	様々なメディアや人からの情報収集能力	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の家の人の買い物の仕方について調べる。 ・スーパーマーケットを見学し、店の工夫について考える。 	○				<ul style="list-style-type: none"> ・家の人の買い物について、店や品物について意欲的に調べている。
	とらえる	情報の選択・分析	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物の仕方について、理由まで分析する。 		○			<ul style="list-style-type: none"> ・買い物の仕方からわかったことをまとめて

<p>交流する 伝える</p>	<p>(店の表と奥に分けて考えましよう) ○ペアで相談しましょう。 ○発表しましょう。</p>	<p>・品物をはこんでいる。 ・レジで働いている。 (店の裏) ・トラックで荷物を運んでいる。 ・調理をしている。 ・電話に出ている。</p>	<p>ことに気付かせる。 【観察・技能】 スーパーマーケット全体の様子から、働いている人々の仕事を見つけている。(発言・ノート)</p>
<p>とらえる 交流する</p>	<p>●見学で調べることについて、話し合しましょう。 ○どんな仕事をしているのか分からない人はいませんか。見学に行つて確かめましょう。</p>	<p>・品物の検査をしている人は、何を調べているの？ ・サービスカウンターではどんなことができるの？</p>	<p>○普段の買い物や、教科書の図を参考に、疑問に思うことを挙げさせる。</p>

1 4 板書計画 (場の設定)

<p>スーパーマーケットのひみつをさぐろう！</p>		
<p>○品物について</p>	<p>○はたらく人について</p>	
<p>・しゅるいごとにならんでいる。 ・品物のかん板がある。 ・にている品物は近くにならんでいる。</p>	<p>(店の表) ・新しい品物をならべる。 ・調理をしている。 ・レジではたらいっている。</p>	<p>(店のうら) ・にもつをはこんでいる。 ・調理をしている。 ・電話に出ている。</p>

1 5 実践授業を終えて成果と課題

教科書の大きな挿絵や、実際のスーパーマーケットの写真を提示することで、子どもたちは興味を持って工夫を探すことができた。また、ペアで相談することにより、普段の生活で買い物に行った場面を思い出しながら、具体的に話をすることができた。

この話し合いによってたくさんの疑問が子どもたちのほうから出され、見学当日にはスーパーマーケットの店長さんに直接質問をさせてもらうことができた。ただ、お店の内部までは見学が許されず、疑問が残った児童もいた。

見学後には、当日とった写真を見たり、店長さんの話を思い出したりしながら、「お客さんが安心して買い物できる工夫」や「環境のための工夫」など観点ごとに新聞にまとめることができた。

第3学年 社会科学習指導案

箕面市立萱野学校

指導者 小谷周平

- 1 日時 12月4日(水)、12月6日(金)
- 2 学年・クラス 3年1組(37名)、2組(37名)、3組(38名)
- 3 場所 3年各教室
- 4 研究仮説

タブレット PC などの ICT 機器や図書館を用いた情報活用の取り組みに低学年の内から慣れ、日々の授業に効果的、定期的に活用する機会を取り入れていくことで、ICT 機器活用の能力、情報活用能力などを身につけて社会に出ていくことができる。
集めた情報を整理する複数の方法を知ること、より重要なことが伝わりやすい伝え方を考えることができる。

- 5 授業仮説

お店調べの学習において、各クラスの買い物状況を調べ、その結果をグラフにまとめて比較することで、どのような形式だと伝わりやすいかを考えることができる。

- 6 単元名 お店調べ

- 7 単元設定の理由

(1) 教材観

普段買い物をしている店にはどのような種類のものがあるか、自分の家庭ではどのような店を多く活用しているかを考え、家庭での調べ学習を経て、クラス内で共有する。今では店舗数も活用数も少なくなった八百屋、肉屋などに代わり、スーパーマーケットの利用が多くを占めており、また身近にはコンビニエンスストア、校区内にはショッピングモールがあるが、それぞれの特徴と良さを考え、状況に応じて使い分けられることを学習する。

(2) 児童観

興味のあることに前向きで、積極的に学習に向かうことのできる学年である。一方で興味を持たないと極端に態度に出たり、別のことに集中してしまったりする児童もいる。ICT での学習には前向きで、どんどん吸収して使いこなせるようになっていく。問題が起こった時に慌てず先生を呼ぶこともできている。

(3) 指導観

事前学習により、各クラスの児童の「いろいろな種類の店の利用頻度」をまとめていく。本授業ではその数値をグラフに表し、それぞれのグラフの特徴や良さについて考える。グラフによって見やすさが違うが、今回の場合どのグラフが有用かをそれぞれが考え、意見を交流することで学びを深めたい。
グラフ自体に馴染みが少ないことも予想されるので、どんな時に多く使われるグラフかをクラス全体で考えていく。

8 単元目標

地域の人々の販売や生産に関わる仕事は、自分たちの生活を支えていること、またそれらの仕事に携わっている人々の工夫や他地域との関わりがあることを理解できるようにする。

地域の人々の販売や生産の仕事の様子や工夫について関心を持ち、それらを意欲的に調べることを通して、地域社会の一員としての自覚を持つようにする。

地域の人々の販売や生産の仕事の様子や工夫などを、観察・調査したり、白地図にまとめたりして調べ、それぞれの仕事の特徴に応じて、他地域などとの関わりも持ちながら、様々な工夫をしていることを具体的に考える力や、調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする。

9 評価規準

○関心・意欲・態度…地域の人々の販売や生産の様子に関心を持ち、意欲的に調べることを通して地域の人々の販売や生産の仕事と自分たちの生活との関わりについて考えようとしている。

○思考・判断・表現…地域の人々の販売や生産の仕事について学習問題や予想、学習計画を考えて表現し、調べたことをもとに、地域の販売や生産の仕事に携わっている人々の工夫について考え、調べたことや考えたことを適切に表現している。

○観察・技能………地域の人々の販売や生産の仕事の特徴や国内外の他地域などとの関わりを見学、調査して具体的に調べるとともに、調べた過程や結果をノートや作品にまとめている。

○知識・理解………地域の販売や生産の仕事に携わっている人々の工夫や、それらの仕事は他地域と関わりがあることを理解している。

10 指導計画 評価計画（評価の重点化）

時数	情報活用 能力の分類	内容	学習内容（ねらい）	関	考	技	知	評価規準 評価方法
1次 1h	あつめる	様々なメディアや人からの情報収集能力	各家庭においてどのようなお店で買い物をよくしているかを調べる	○		○		
2次 2h	とらえる	情報の選択・分析	調べてきた内容をクラスで交流し、それぞれのお店の特徴や良さ、利用頻度について考える	○	◎			
3次 1h	まとめる	情報の加工と編集	情報をグラフにまとめ、それぞれの特徴と良さについて考える			○	○	
	交流する	人と対話し練り上げる	それぞれのグラフの特徴と良さ、利用頻度の特徴について意見を交流する	○	◎			

1.1 本時の目標

- ・自分の家の人が、どんな店でなにを買っているのか話しあい、買い物調べに意欲を持つことができる。
- ・自分の家の人の買い物の仕方について調べたことを、地図やグラフにまとめることができる。

1.2 本時 評価の観点 評価規準

<p>A層…家の人の買い物の仕方からわかったことを、グラフにまとめ、グラフの特徴からわかることを発表する。</p> <p>B層…家の人の買い物の仕方からわかったことを、ノートを見ながらグラフにまとめ、ふりかえりを書くことができる。</p> <p>C層…家の人の買い物の仕方からわかったことを、黒板を見ながらグラフにまとめている。</p>
--

1.3 展開（3次）

情報活用 能力の分類	教師の発問・指示	(予想)児童・生徒の反応・ 活動	○指導上の留意点 【評価：評価方法】
まとめる	<p>「前回までに調べた、クラス内のお店の利用頻度について、振り返りましょう」</p> <p>黒板にクラス内のお店の利用頻度を書き、振り返る。</p> <p>「ファイルに情報を入力しましょう」</p>	<p>一人一台のタブレット PC を机に持ってきて、立ち上げる。</p> <p>教師から送られてくる Excel ファイルを開く。</p> <p>黒板を見ても、ノートを見てもよい。</p> <p>セルを選び、数値を入力する。</p>	<p>タブレット PC を適切に扱い、問題なく立ち上げられているか。</p> <p>ファイルの展開をスムーズに行えているか。</p> <p>クラス情報なので、全員が同じ内容のグラフを作ることができるか。</p>

<p>交流する</p>	<p>「出来上がったグラフは、『棒グラフ』と言います」 「どんなところで見たことがありますか？」</p> <p>「二枚目のシートにも、同じように数値を入力してみましよう」</p> <p>「三枚目のシートにも、同じように数値を入力してみましよう」</p> <p>「四枚目のシートを見ると、今までのグラフが比べられます」 「あなたはどのグラフが一番わかりやすいと思いましたが？ また、その理由はなんですか？」</p> <p>「一番わかりやすいと思ったグラフと、その理由を発表しましょう」 児童の画面を電子黒板に写し、感想や発表を共有する。</p> <p>「数値を表すには、様々なグラフの形がありますね。場合に応じて使い分けましよう」</p>	<p>シートを変更し、セルを選び、数値を入力する。</p> <p>シートを変更し、セルを選び、数値を入力する。</p> <p>Excel の四枚目のシート（もしくは電子黒板）を見ながら、OneNote ファイルにふりかえりを記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・棒グラフ 高さで比べやすい あるのとないのとがわかりやすい 数が見やすい ・円グラフ 割合が見やすい 何が多いか見やすい ・レーダー 何が多いか見やすい 	<p>同じ内容のグラフを作ることができているか。</p> <p>同じ内容のグラフを作ることができているか。</p> <p>配布された OneNote ファイルに正しく文字を記入することができる。できるだけ理由もしっかりと書く。</p> <p>どのグラフを選ぶのが正しい、という交流ではなく、それぞれによさがあり、使い分けることが大事であることを理解する。</p>
-------------	---	---	---

1 4 成果と課題

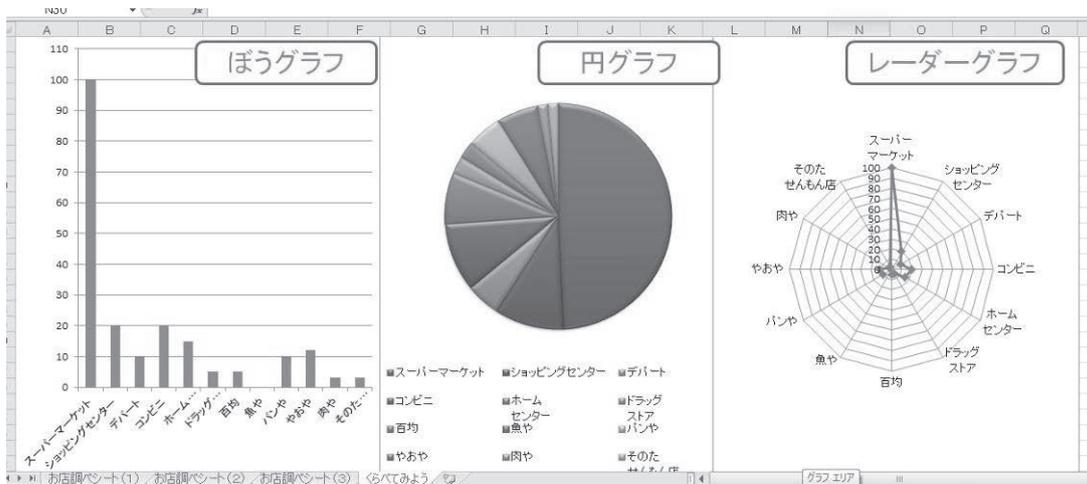
<成果>

- ・3年生ということもあり、PC を的確に使うことに無理があるかなとも思えたが、子どもたちの飲み込みは早く、操作方法などを教えあっている様子があった。
- ・各クラスともスーパーマーケットの利用が多く、グラフに表した時に差がよくわかる状態だったため、どのグラフにどんな特徴が出ているかが発言しやすかった。
- ・普段席にずっと座っているのが難しい児童が、画面を IWB に映し出す際、映してもらいたいために積極的に頑張る姿があった。

<課題>

- すべてのタブレット PC との通信がうまくいったわけではなかったため、ファイルを共有フォルダから引き出す操作を個別に行う必要があった。また、そのタブレット PC の画面は IWB に映し出せないという制限があったのが残念だった。

*ファイル入力例



第5学年 社会科学習指導案

箕面市立北小学校

指導者 田尾 真一

1 日時 平成25年(2013年)11月15日

2 学年・5年ろ組 (26名)

3 場所 5年ろ組教室

4 研究仮説

情報活用の段階を意識した指導計画を立て、それぞれの段階に応じた具体的手立てを組み込んだ授業を、発達段階に応じて、経年で指導していくことで義務教育終了段階で社会に出ても活用できる情報活用能力の育成が図れるだろう

5 授業仮説

写真や絵を使って、見学でわかったことを伝えることで必要な情報の収集・選択、効果的に伝える力の育成が図れるだろう。

6 単元名

工業の発達とわたしたちの暮らし

7 単元設定 の理由

(1) 教材観

我が国の自動車工業について、消費者の多様な需要にこたえ、環境に配慮しながら、優れた製品を生産するために、さまざまな工夫や努力をしていることを目標とする。実際に、自動車工場の現場を見学することで、それらを学んでいく。見学でわかったことを、伝えるために必要な写真や絵を使う。

この学習を通して必要な情報収集、目的や意図に応じて、様々な形でプレゼンテーションしていく能力を育てていきたい。

(2) 児童・生徒観

本学年は、好奇心が旺盛でいろいろなことに興味をもって調べようとする子どもが多く見られる。自分が興味をもったことは、意欲的に調べようすることができる。一方で、聞き手のことを意識して、自分が調べたことをわかりやすく伝えることには、苦手なところも見られる。

(3) 指導観 具体的な指導方法を明確に記入

自動車工場については、写真、資料がたくさんある。この教材を指導するにあたって、見学した工場内の写真をつかって、製品を生産する上での工夫・努力を伝えさせる。写真の中から、子どもたちが発表するのに必要なものを選ばせる。そして、写真をもとに、伝えたいことがらをワークシートにまとめて書かせる。この活動によって、子どもたちに目標を達成させることができるだろうと考える。

8 単元目標

(理解に関する目標)

- 我が国の自動車工業について、消費者の多様な需要にこたえ、環境に配慮しながら、優れた製品を生産するために、さまざまな工夫や努力をしていることを取り上げ、我が国の工業生産は国民生活を支える重要な役割をはたしていることを理解できるようにする。

(態度に関する目標)

- 我が国の自動車工業は、従事している人々のさまざまな工夫や努力によって発達していることや、そのことによって、国民生活の維持と工場が図られていることに関心を持つようにする。

(能力に関する目標)

- 我が国の自動車工業に従事している人々の工夫や努力、貿易や運輸などの働きを、見学や視聴覚資料、地図や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を活用して調べ、それらが国民生活を支える重要な役割を果たしていることについて考える力や、調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする。

9 評価規準 4観点 (関心・意欲・態度 思考・判断・表現 技能 知識・理解)

10 指導計画 評価計画 (評価の重点化) (取組まない段階は抜き、2段階で取組む場合は追加)

時数	情報活用能力の分類	内容	学習内容 (ねらい)	関	考	表	知	評価規準 評価方法
	あつめる	様々なメディアや人からの情報収集能力	自動車工場に関連した情報・写真を集める。	○				テーマに興味を持ち情報・写真を集めることができている。
	とらえる	情報の選択・分析	見学で撮った写真・集めた写真・見学の様子を思いだしてかいた絵などの中から、話題にしたいものを選ぶ。		○			話題のテーマを決め、それを伝えるのに必要なものを選ぶことができる。
	まとめる	情報の加工と編集	情報をもとに見学でわかったことを書く。		○			見学で分かったことが、書けたか
	伝える	目的や意図に応じて、様々な形でプレゼンテーションする	グループの中で発表			○		まとめた情報を発表できる。
	交流する	人と対話し練り上げる	グループの中で情報交流			○		グループで交流し友だちの意見を聞きながら、自分の考えを深めることができる。
	振り返る	自分の情報活用について振り返る	学習をもとに振り返り	○				学習してきたテーマに関心を持ち、振り返ることができる。

1.1 本時の目標

- ・自動車工場の見学して、分かったことを発表することができるようになる。
- ・写真や絵などの資料を使って分かりやすく伝えることができるようになる。

1.2 本時 評価の観点 評価規準

- ・写真や絵などの資料を使って分かりやすく伝えることができる。

1.3 本時の展開

学習活動	指導上の留意点	評価基準
1. 自動車工場を見学したときの写真・絵や関連した写真などをもとにして、見学でわかったことをワークシートに書く	<ul style="list-style-type: none"> ・受け手が分かりやすいように、内容・構成に工夫して書かせる ・自分の考え・理由を書かせる ・工場で写真撮影ができない場合は、関連した写真や見学の様子を絵に表すなどして伝えさせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・見学したことを、分かりやすく伝えられるように、内容・構成に工夫して書けたか
写真や絵を使って、見学してわかったことを発表しよう。		
2. 見学して分かったことをグループ内で発表する 発表を聞いた後、感想を交流する	<ul style="list-style-type: none"> ・受け手に分かりやすいように、写真などを内容を伝えさせる ・自分の考え・理由も伝えさせる ・声の大きさ、話す速さなど伝え方に工夫させる ・自分の考えと違う意見も聞き、互いの意見の違いについて気付かせる 	<ul style="list-style-type: none"> 見学して分かったことを、分かりやすく受け手に伝えられたか 互いの意見の違いを感じ取り、自分の感想が伝えられたか

1.4 実践授業を終えて成果と課題

(成果)

- ・写真や絵をつかうことで、自動車工場の見学でわかったことが、よりわかりやすくまとめることができた。
- ・見学のまとめを書くことが苦手な子どもも、写真や絵の説明を文章に書くことで、学習を進めることができた。
- ・グループ内での発表のとき、資料として写真や絵があることで、子どもたちは興味をもって発表をきくことができた。

(課題)

- ・自動車工場の見学のとき、工場内の写真撮影は許可されなかった。このため、実際の写真を撮ることができなかった。そこで、工場でもらった見学の資料、見学で見たもののことを思い出しながら絵、社会科学習資料集の本にのっている写真などを代用することで、本時の学習を進めることになった。
企業の工場見学では、写真撮影が制限される場合があるので、本時の学習をそのまま実現するのができなかった。

第6学年 社会科学学習指導案

箕面市立南小学校

授業者 五十嵐直人

- 1 日時 2014年3月4日
- 2 学年・クラス 6年2組(32名)
- 3 場所 パソコン教室
- 4 研究仮説

教科書やその他の図書、資料集という材料に加えて、インターネットを利用することにより、より自分が必要としている情報に近い情報を手に入れやすくなり、学習の理解を深めることが一層容易になるであろう。

- 5 授業仮説

ウェビングなどで連想されたキーワードから、インターネットの検索エンジンを利用することによって、自分が調べたい、手に入れたいと思う情報に、より一層近づくことができる能力を高めることができるだろう。

- 6 単元名 「中国、韓国、アメリカ…日本とつながりの深い国々」

- 7 単元設定の理由

(1) 教材観

本単元では、学習指導要領の内容(3)を扱い、「我が国の経済や文化などの面で、つながりが深い国々の人々の生活の様子」と「我が国の国際交流や国際の協力の様子および平和な国際社会の実現に努力している国際連合の働き」について見学、調査したり、資料を活用したりして調べ、考えることを主な学習内容としている。

(2) 児童観

本校では「素敵な出会いの日」と題して、毎年、各学年が外国の方をゲストティーチャーとしてお招きし、外国の方と直接ふれあったり、外国の文化を体験したりする授業を行っている。この行事において6年生は今年、ボリビアからのゲストティーチャーとの交流を持つことができた。この行事を行うまで、「ボリビアがどこにあるのか」、あるいは「ボリビアという国名を聞いたこともない」という子どもが大多数であった。

交流活動自体はとても関心が高く、興味深い時間を過ごすことができた。しかし一過性のイベントに終わってしまわないか心配が残った。これは、ボリビアという国が、全くないとは言わないが、あまり日本と深いつながりがなかったことに原因の一つがあったと思われる。

(3) 指導観

こうした状況から、社会科で継続して課題を追求していく活動を進めていくためには、「子どもたちが暮らしの中で身近に感じやすい国々を学習テーマとして選ぶ」ことができるような手だて、支援が必要だと考えた。

小単元「日本とのつながりの深い国々」では、日本とつながりの深い国々から子ども自らが調べる国を1カ国選択する。その際に、インターネット検索や図書館での調査をする前に、様々なキーワードから「ウェビング」を行い、多様なアプローチで、調べる1カ国を選択、決定できるようにしていきたい。「こんな視点があるのか」という調べ方の段階での驚きを導き出し、

選んだ国への追求へとつなげていくことが大きなねらいである。

また追求したことを、追求したままにしておくのではなく、効果的なまとめとその発表の場をうまく設定したい。最終的にはパワーポイントを利用し、選んだ国の15秒広告を自分でプレゼンできることを目標とする。「広告」となれば、インターネットや本の丸写しではだめである。調べた情報のうち、「大事なところにアンダーラインを引く。」「文字数を限定して、キーワードを選ばせる。」「それらをうまくつなげて、伝えたいことがうまく伝わる広告にする」という条件を設定する。こうすることで様々な興味深い広告、プレゼンが6年生なりに可能となるであろう。

8 単元目標

(理解) 我が国の国際交流や国際協力の様子について、外国の人々とともに生きていくには、異なる文化や習慣を理解しあうことが大切であること、我が国は経済や文化の交流などで世界の国々と深いつながりをもっていることなどを理解できるようにする。

(態度) 我が国の国際交流や国際協力のようすについて調べるなかで、平和を願う日本人として世界の国々の人々とともに生きていくことが大切であるという自覚を育てるようにする。

(能力) 我が国の国際交流や国際協力の様子について、社会的事象を具体的に調査するとともに、地図や地球儀、年表などの各種の基礎的資料を効果的に活用し、外国の人々の文化や習慣の違いにふれ、その違いを理解し、尊重することが外国の人々とともに生きるうえで大切であることを考える力、調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする。

9 評価規準

(関心・意欲・態度)

我が国の国際交流や国際協力の様子について関心をもち、意欲的に調べることを通して、異なる文化や習慣を理解しあうことや世界平和の大切さを考えようとしている。

(思考・判断・表現)

我が国の国際交流や国際協力の様子について学習問題や予想、学習計画を考え表現し、調べたことをもとに、異なる文化や習慣を理解しあうことが大切であることを考え、調べたことや考えたことを適切に表現している。

(観察・技能)

我が国の国際交流や国際協力のようすについて、社会的事象を具体的に調査するとともに、地図や地球儀、年表などの各種の基礎的資料を効果的に活用して具体的に調べ、調べた過程や結果をノートや作品にまとめている。

(知識・理解)

我が国と経済や文化などの面でつながりが深い国の人々の生活の様子や、外国の人々と異なる文化や週間を理解しあうことをとらえている。

10 指導計画 評価計画

時数	情報活用能力の分類	内容	学習内容 (ねらい)	関心	思考	技能	知識	評価規準 評価方法
2	あつめる (本時)	様々なメディアから人からの情報収集能力	<ul style="list-style-type: none"> ・概要調べ(地図帳) ・「繋がり」から連想する言葉をまとめる。(ウェビング等) ・日本とその国との「繋がり、関わり、関係」を調べる。(インターネット) 	○			○	
1	とらえる	情報の選択・分析	<ul style="list-style-type: none"> ・調べた情報の内、「友だちに伝える 価値のある内容」を理由づけ選択。 ・選んだ情報内容を更に強化したり、厳選したりする。 		○			
2	まとめる	情報の加工と編集	<ul style="list-style-type: none"> ・日中(日韓・日米)の繋がりをまとめる。(新聞作成ソフトやパワーポイント) 			○	○	
1	伝える	目的や意図に応じて様々な形でプレゼンする	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜその情報を友だちに伝えようとして選択したのか理由を付けプレゼン。 3人グループで。 	○				
	交流する	人と対話し練り上げる	<ul style="list-style-type: none"> ・グループでアドバイスタイム。(内容) もっと知りたい 必要不必要 興味を持てた 		○			

1			(方法) 理解しやすい 見やすい見にくい					
	振り返る	自分の情報活用 を振り返る	・アドバイスタ イムをふまえて、 作品を自己評価。	○				

1 1 本時の目標

自分が必要としている情報になるべく近づけるように、キーワードを変えるなど自分なりに工夫して、インターネットを利用して情報収集を行う。

1 2 本時 評価の観点 評価規準

(知) ウェビング等により、必要とするキーワードを探し出すことができる。

- ・A層…「繋がり、関わり、関係」に関するキーワードを10個以上探し出す。
- ・B層…「繋がり、関わり、関係」に関するキーワードを5個以上探し出す
- ・C層…「繋がり、関わり、関係」に関するキーワードを3個以上探し出す

(技) インターネットを利用し、日本とその国の繋がりに関わる情報を調べ、集めることができる。

- ・A層…「日本とその国の関係」に関する情報を3つ以上調べ、集める。
- ・B層…「日本とその国の関係」に関する情報を2つ調べ、集める。
- ・C層…「日本とその国の関係」に関する情報を1つ調べ、集める。

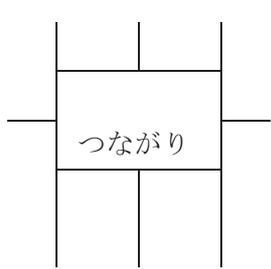
1 3 本時の展開

情報活用 能力の分類	教師の発問・指示	児童の反応・活動	指導上の留意点 【評価：評価方法】
集める①	○繋がり、関わり、関係 という言葉から何を連 想しますか。	○1人でウェビング ○班でウェビング ・繋がり→友だち けんか →貿易、品物 多国籍企業 →戦争 →歴史 →旅行、観光 →文化 料理 ファッション 映画 アニメ	○紙にウェビングで作業 させる。 ○1人では出てこない人 には班で数多く発見さ せる。 【知：言葉の個数】

		歌手、俳優 →在日外国人	
とらえる	○見つけたキーワードの内、どれを調べていけばよいか、優先順位を考えてワークシートにメモしよう。	○ここの国の文化は数多く日本に存在する。 ○歴史の繋がりが重要	○調べる優先順位、友だちに伝える価値があるものの順番を自分なりに決めている。 【思：ワークシート】
集める②	○日本とその国との繋がり、関わり、関係をインターネットを利用して調べよう。 ○そのまま写すのではなく、友だちに伝える価値があると自分で判断した部分をメモしよう。	○料理はたくさん日本に入ってきている。 ○長い歴史上の関係がある。 ○貿易の詳しい内容がわからない。	○自分の調べたい内容に近づけているか。 【技：ワークシート】

1 4 板書計画

日本とつながりの深い国



◎友だちに伝える価値があるもの

↓

なぜ伝える価値があると思ったのか

◎発表、報告することを念頭において！

1 5 成果と課題

(成果)

- ・インターネット、図書館の資料を用意しただけでは、自分がとことん追求しようと思う国を選択、決定することが難しかった。しかし子どもたちにウェビングを使い、多様な視点、大きな広がりを持って日本と外国とのつながりを議論するよう条件を設定すると、多くの子どもたちがやる気、意欲をもってその国の調べ学習、プレゼン作成に挑むよう変化が見られた。

(課題)

- ・コンピュータ機器の操作やインターネット検索の活用方法に、子どもたちの中に格差が見られた。学校で行うコンピュータを使った授業程度では、この差はとても埋められないと思われる。
- ・情報化社会が生活の隅々にまで行き渡っている毎日の暮らしを送る子どもたちにとっては、いやでもデジタル技術が身についていくように思われる。逆に言うと、学校でなければ「アナログ」な活動、技術が身につけられない時代が来ている。どちらの技術も大切なので、両者のバランスのとれた教育活動が大切だと感じた。

第5学年 総合的な学習指導案

箕面市立東小学校

指導者 矢吹 岳大

- 1 日時 11月11日(月)
- 2 学年・クラス 5年3組(32名)
- 3 場所 5年3組教室
- 4 研究仮説
情報活用の段階を意識した指導計画を立て、それぞれの段階に応じた具体的手立てを組み込んだ授業を、発達段階に応じて、経年で指導していくことで義務教育終了段階で社会に出ても活用できる情報活用能力の育成が図れるだろう
- 5 授業仮説
パワーポイントを使いCMを作成する活動を通し、情報機器を活用する能力、及び、数多ある情報を精選し、表現する力の育成が図れるだろう
- 6 単元名 米作りについて学ぼう

7 単元設定の理由

(1) 教材観

「米作り」については、社会科での学習とリンクし、苗から田植え、稲刈りまでの流れを学習した。また、米作りには豊富な水が必要なこと、米作りをする上での苦労や気をつけていること、よりよい米を作るために品種改良を重ねていることなども学習した。こうした学習で児童は頭では理解してはいるが、実際に汗を流したわけでもなく、どこか教科書の中の話という雰囲気が見られた。そこで、実際に農家の方と出会い、農家の方の心配なことや、苦労なども教えていただいた。また、田植えや稲刈りをさせていただき、子どもたちには実感の伴った学習になればと思っている。

そして、学習したことのまとめとして、15秒四コマCMを作る。伝えたい多くのことから、大事なことを絞って発信することで、情報の取捨選択の目が養えると考えます。

(2) 児童・生徒観

当該クラスの児童は元気でノリがよく、常に楽しいことを考えることができる。また、イベント事や、やりたいことには積極的に取り組める。その一方で、指示待ちな面があり、自分から進んで役割を果たすことに課題があるように思われる。また、自分の思いを優先しがちな児童も多く、周りに対する協力する気持ちが薄い面もある。

この教材を通して、相手のことを考えて行動する素地を培い、協力して活動していける児童に育ててほしいと考える。また、「まとめる」といった作業は、紙に手書きで「〇〇新聞」というようなまとめ方はしてきているものの、パソコンを使ってまとめることについては未経験である。また、パワーポイントを使った経験もない。さらに、どのようにまとめたらよいのかわからない児童も多いように思われる。

(3) 指導観

このような特性を持つ児童にこの教材を指導するにあたって、まずは、児童が進んで取り組めるようにすることが一番である。そのために、児童には、学習したことと実体験がリンクするように、

田植えや稲刈りはもちろん、農家の工夫や苦労を実際に話を聞ける場を設定する。また、疑問や質問に答えてもらう場を設定する。また、パワーポイントでCMを作る際には、実際のCMを例に取り上げ、その効果についても考えさせる。また、パワーポイントで簡単な操作の仕方を学んでから、実際にCMを作っていくことで、苦手意識のある児童も取り組みやすいようにする。そして、班で協力して活動させることでひとりではまとめられない児童も取り組めるようになる。

8 単元目標

社会科で学習した米作りの単元、田植えや稲刈りの体験などから、より深く知りたいことを探求する姿勢を持って調べ、情報を取捨選択し、表現する力を育てるようにする。

9 評価規準 4 観点（関心・意欲・態度 思考・判断・表現 技能 知識・理解）

国語（関心・意欲・態度 話す・聞く能力 書く能力 読む能力
言語についての知識・理解・技能）

算・数（関心・意欲・態度 数学的な（見方や）考え方 表現・処理
知識・理解）

体育（関心・意欲・態度 思考・判断 技能 知識・理解）

英語（コミュニケーションへの関心・意欲・態度 表現の能力 理解の能力 言語
や文化についての知識・理解）

10 指導計画 評価計画（評価の重点化）（取組まない段階は抜き、2段階で取組む場合は追加）

時数	情報活用能力の分類	内容	学習内容（ねらい）	関	考	表	知	評価規準 評価方法
	あつめる	様々なメディアや人からの情報収集能力	田植え・稲刈り・インタビューを通し、実体験から情報を集める。 インターネットで調べる。	○				関心を持って情報収集をする。
	とらえる	情報の選択・分析	集めた情報から使う内容を選択する。		○			伝える内容をグループで考える。
	まとめる	情報の加工と編集	パワーポイントにまとめる。			○		パワーポイントの使い方を知り、4コマを作成する。
	伝える	目的や意図に応じて、様々な形でプレゼンテーションする	プレゼン				○	伝えたいことがらを端的に表現している。
	交流する	人と対話し練り上げる						
	振り返る	自分の情報活用について振り返る	自分の活動をふりかえる。					

1.1 本時の目標

パワーポイントを使い、1コマ目を作成する。

1.2 本時 評価の観点 評価規準

伝えたい内容から、1枚目のパワーポイントにどのようなことを書くのか精選できている。

1.3 本時の展開

情報活用 能力の分類	教師の発問・指示	(予想)児童・生徒の反応・ 活動	○指導上の留意点 【評価：評価方法】
まとめる	前時の復習 「CMの効果とはどんなものがあったかな。」	<ul style="list-style-type: none"> ・伝えたいこと全てを言うのではない。 ・本当に大事なことを表現する。 ・驚きや、興味がわくような音、色、表現。 ・ストーリーになっているものもある。 	○CMの効果について貼物を使い、確認する。
	<p>「みんな、課題 伝えたいことをよく考え、CMの1コマ目を作成しよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CMの効果について確認。 ・4コマ、パワーポイントで。 <p>「内容が効果的に伝わるCMにするよう、4コマのイメージを描きましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4コマの絵コンテ用の紙を配布。 <p>「パワーポイントを使い、1コマ目を作成しよう。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・班で話し合い、どのようなCMにするか話し合う。 ・絵コンテを描く。 <p>絵コンテをもとに、CMの1コマ目を作成する。</p>	○効果的な表現が浮かばない班には、CMの例をマニュアルに設定するよう促す。

1.4 板書計画 (場の設定)

1.5 実践授業を終えて成果と課題

田植えや稲刈り、農家の方に話を聞く等といった実体験を経て取り組むことで、より深く調べたい課題をひとりひとりが持ちやすく(イメージしやすく)なった。時間制限を設けることにより、伝える内容を精選させたが、時間だけでなく、時数制限をするとよりすっきりとわかりやすくなったのではと思う。適切な情報を集めることが難しいので、ある程度、教員が絞り込みをしてもよかったかなと思う。

第2学年 生活科学習指導案

箕面市立西南小学校

指導者 江見 あゆみ

- 1 日時 2013年11月11日(月) 3時間目
- 2 学年・クラス 第2学年1組 (男子15名、女子14名 計29名)
- 3 場所 2年1組教室

4 研究仮説

情報活用の段階を意識した指導計画を立て、それぞれの段階に応じた具体的手立てを組み込んだ授業を、発達段階に応じて、経年で指導していくことで義務教育終了段階で社会に出ても活用できる情報活用能力の育成が図れるだろう

5 授業仮説

身の回りにある材料を使っておもちゃ作りを行うことで、それらの材料が工夫すれば生かされたり自分が楽しめるものになったりすることを知らることができるだろう。

6 単元名 「おもちゃまつりをひらこう」

7 単元設定の理由

(1) 教材観

本単元は、学習指導要領の内容(6)「身の回りの自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして、遊びや遊びに使うものを工夫してつくり、その面白さや自然の不思議さに気づき、みんなで遊びを楽しむことができるようにする」に基づいて設定したものである。

ここでは、身近にある自然を利用したり、身近にある物を使ったりして、遊びの工夫や、遊びに使う物を工夫しながら作ることが主な活動である。そして、その活動を通して、遊びの面白さや不思議さに気付くとともにみんなで遊びを楽しむことができるようにすることを目指している。

(2) 児童・生徒観

1年生「あきとなかよし」では、身近な自然物(主にドングリや木の葉など)を使って、制作活動を行った。まだ、道具の使い方もおぼつかない面もありながら、何とか作りたいものを仕上げる事ができた。友だちの良さや頑張りを感じたり、発想の良さや技能面などに刺激されたりしながら楽しく遊ぶ事ができた。

しかし、一方では、なかなか自分のしたいことを決められない児童や作例を見ても制作活動の進まない児童も数人いる。

本単元の活動を通して、夢中になって遊んだり、友達との様々な経験をしたりすることによって、受け身ではない姿に少しでも変わって行って欲しいと願っている。

(3) 指導観

まず、教師の参考作品を紹介する中で、おもちゃ作りに関心を持たせたい。参考作品は、簡単な仕組みで動く物、工夫次第で動きが良くなる物などを用意する。身近にある材料を利用しておもちゃを作りたいという気持ちを持たせ、児童にも材料集めをさせていきたい。ゴムやおもりなど、動く仕組みに目を向けさせるために、作り方のヒントカードなどを掲示し、おもちゃ作りに児童が活かせるようにしたい。

おもちゃ作りの過程では、おもちゃのお気に入りのところや工夫したところ、作ったり遊んだりしているときに発見したこと、困っていることなどを友達と話をする場の設定をする。そうすることで、児童の気付きの深まりを図るようにするとともに、次への活動への期待感を高めるようにする。材料をかえる、坂を作る、ゴムの本数を増やすなど、「より速く」「より遠く」といったもっと楽しく遊べるおもちゃに作りかえていきたいという意欲を高めていきたい。この活動を通して科学的なものの見方・考え方の素地を養うとともに自分や友達のよさに気付くようにする。

つぎに、自分たちで作ったおもちゃを使ってみんなで遊ぶ活動を行う。みんなで遊ぶことで、考えた遊びやルールを工夫させていきたい。その後には、感想を話し合い、おもちゃ作りのよさや楽しさ、友達の頑張りを認め合うようにする。また、身の回りの材料を自分たちの生活の中で工夫をすれば、これらのものが活かされたり、自分たちが楽しめるものになったりすることに気付かせていきたい。

「1年生を招待しておもちゃまつりをひらこう」では、1年生を招待し、一緒に遊ぶ会を持つ。1年生が楽しく遊ぶことができるように、おもちゃを作りかえたり、ルールを考え直したりする。おもちゃまつりでは、1年生にわかりやすく遊びのルールを説明したり、1年生と遊んだりしながら、関わりを深めていきたい。遊んだ後に、1年生や1年生の先生の感想を紹介したり、活動したことやがんばってきたことを振り返ったりして、活動への達成感を持たせたい。そして、これからも身近なものを使って、遊ぶものを作ったり、遊びを工夫したりできるようにしていきたい。

8 単元目標

身近にある物を使って遊びや遊びに使う物を工夫してつくり、みんなで遊びを楽しむことができる。

9 評価規準

○生活への関心・意欲・態度

身近にあるいろいろな物や遊びに関心をもち、友だちと交流しながら楽しく遊ぼうとする。

○活動や体験についての思考・表現

身近にある物を使って遊ぶ物を工夫して作り、遊び方を考える。

○身近な環境や自分についての気付き

身近にある物を使って遊ぶことや遊ぶ楽しさ、友だちや自分のよさに気付く。

10 指導計画 評価計画（評価の重点化）（取組まない段階は抜き、2段階で取組む場合は追加）

時数	情報活用能力の分類	内容	学習内容（ねらい）	関	表	気	評価規準 評価方法
2	あつめる	様々なメディアや人からの情報収集能力	教科書や図鑑、見本から、自分がつくりたいおもちゃを見つかる。	○		○	動くおもちゃに関心を持ち、道具や身近な材料などを準備して、自分でおもちゃを作ろうとしている。
2	とらえる	情報の選択・分析	自分がつくりたいおもちゃを選び、必要な材料や道具などを考え作ってみる。		○		
1	まとめる	情報の加工と編集	作ったおもちゃで遊んでみて、改良したり工夫してよりよいものを作ったりする。		○		<ul style="list-style-type: none"> ・どうやったらおもちゃの機能を高められるかを考えて、比べたり、試したり、見立てたりしながら、工夫しておもちゃをつくとともに、工夫したところを友だちと教えあっている。 ・みんなで楽しくあそべるように、ルールを考え、みんなに伝えている。
1	伝える	目的や意図に応じて、様々な形でプレゼンテーションする	グループで作ったおもちゃを紹介し、うまくいったところや工夫したこと、難しかったことなどを発表する。1年生と一緒に遊べるもの、作れるものを考え、選ぶ。		○		
2	交流する	人と対話し練り上げる	1年生と一緒におもちゃ作りをして遊ぶ。		○		ルールを守って楽しく遊ぶ。
1	振り返る	自分の情報活用について振り返る	工夫したところなどを振り返る。			○	

1.1 本時の目標

招待する1年生のことを考えて、友だちと関わりながら、自分たちのおもちゃをよりよいものにしようと思えることができる。

1.2 本時 評価の観点 評価規準

生活への関心・意欲・態度

・友だちの感想を聞いて、自分たちのおもちゃがより楽しく遊べるものになるようにしていこうとしている。

活動や体験についての思考・表現

・招待する1年生のことを考えたうえで、よりよく作ったり、楽しく遊んだりするためにはどうしたらよいかを、自分なりに工夫し、表現している。

1.3 本時の展開

情報活用能力の分類	教師の発問・指示	(予想)児童・生徒の反応・活動	○指導上の留意点 【評価：評価方法】
-----------	----------	-----------------	-----------------------

とらえる	○1年生を招待する楽しい気持ちを持ちながら、本時のめあてに対して意欲を持つことができるようにする。	○本時のめあてを確かめる。 ・	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 1年生が楽しく遊ぶことができるように、おもちゃを改良したり、ルールを工夫したりしよう </div>			
まとめる	○相手が1年生であることを意識させ、遊び方やルールは分かりやすいか、おもちゃは丈夫であるか、数は足りるか、安全であるかについて考え、工夫するようにする。	○1年生が楽しく遊ぶことができるように、ルールをかえたり、おもちゃを作りかえたりする。(自力活動)	○1年生が楽しく遊ぶことができるようにルールや遊び方を工夫したり、おもちゃの改良をしたりしている。 【思・表】〈振り返りカード〉
伝える	○友達の工夫の良かったところやもっとこうすればよいことなど、気付いたことを発表するようにする。	○工夫したり、改良したりしたことを、グループで知らせる。	○おもちゃの改良やルールの工夫ができていない児童は、上手に工夫している児童やグループの所に連れて行き、参考にさせるようにする。
振り返る	○次時の学習の見通しを持つ。		○1年生と遊ぶことへの意欲が高まるようにする。

16 実践授業を終えて成果と課題（後日記入）

1年生を招待し、実際に一つのグループで作業する時間が10分程度ということで、作るのが難しいところは事前に2年生が準備しておくことに決め、どこまで下準備をするかをグループごとに考えた。その話し合いの中で、「1年生ならこのくらいできるのではないか」「ここは説明が難しいから2年生でしよう」など、1年生のできることや自分たちにできることなどをしっかり考えて話し合いができていた。

また、国語科の「おもちゃの作り方」とリンクさせて取り組んだことで、分かりやすい作り方の説明を考えたり、大きく絵と文で作り方を表したりと、表現の幅が広がったり発表のスキルの向上につながったりといった成果が見られた。

時間や材料などが限られていて、子どもたちの自由な発想が十分に引き出せなかったのも、事前にもっと準備しておく必要を感じた。

第6学年 外国語活動指導案

萱野市立東小学校

指導者 安達 隆史

1 日時 2013年11月13日(水)

2 学年・クラス 6年4組(34名)

3 場所 6年4組教室

4 研究仮説

情報活用の段階を意識した指導計画を立て、それぞれの段階に応じた具体的手立てを組み込んだ授業を、発達段階に応じて、経年で指導していくことで義務教育終了段階で社会に出ても活用できる情報活用能力の育成が図れるだろう

5 授業仮説

I C Tを使用しアメリカでの生活の様子を見聞きすることで、外国の文化を知り、興味を持つことができるだろう。

6 単元名 Lesson6 『What time do you get up?』

7 単元設定の理由

(1) 教材観

学習指導要領との関連 教材の系統 教材に対する認識や理解

(2) 児童・生徒観

本学級の児童は、明るく素直である。教師からの働きかけに対して素直に行動することができる。しかし、自ら考え行動することが苦手で、分からないことや自信がないことには消極的になってしまう。また、間違ふことや友だちと違うことを気にするあまり、自分自身の考えを表現することに躊躇する子が多い。

そのような児童の様子から、人と違うことを気にせず自分の考えに自信を持ち表現できることが大切であると考え、グループでの活動を多く取り入れてきた。他の教科でも、隣の児童と考えを交流する“ペア対話”や、班で交流する“グループ対話”、友だちの意見に付け足しや修正を加えてまとめる“4組の考え”など行ってきた。また、間違っていることを否定せずに、考えの中から良かった点を見つける“肯定的評価”を意識してきた。これらの取り組みの結果、「間違ふても誰かがフォローしてくれる」「自分の考えに自信がなかったけどグループで交流した考えだから発表できる」と互いに支え合い前向きに授業に取り組む子が増えてきている。

(3) 指導観 具体的な指導方法を明確に記入

「英語は分からない」「英語は難しい」と苦手意識が強く消極的になってしまい、声が小さかったり、手が挙がらなかったりする児童の様子が見られた。そのような現状から、ゲームやクイズなどの活動を通して、楽しみながら英語に触れる授業づくりを心掛けてきた。また、ALT の発音を聞くだけでなく、全ての児童が必ず1回は発音できるような活動を取り入れてきた。

本単元は、日常生活の中の時間や動作の表現について知ることがねらいである。前時では、時間や動作の表現を使って、学校生活を中心とした“自分の1日”を紹介した。本時では、児童がより興味を持って考えられるよう“理想の1日”を紹介しあう。「もし1日だけ誰にも邪魔されず自分の好きなように過ごせるとしたら」という児童に関心の高い設定の中、表現したいことを友だちやALT、担任と相談しまとめる。ここでは、英語で書くことがねらいではなく、英語で相手に伝えることに重点を置く。その後、クイズ“誰の1日でしょう”を行う。自分の生活を紹介したり、友だちの発表を聞いて、自分の生活と比べたりすることで、違いを認め合ったり友だちの新たな面に気づいたりして、互いの理解を深めることにもつなげていきたい。また、ALT の生活(「エリック先生の1日」と「エリック青年の1日」)を聞くことで、外国の文化を知り、興味を持たせたい。

8 単元目標

- ・ 世界には時差があることに興味を持つ。
- ・ 動作と時間の表現を知る。
- ・ 積極的に自分の1日を紹介したり、友だちの1日を聞き取ったりする。
- ・ 外国の文化を知り、興味を持つ。

9 評価規準

時数	情報活用能力の分類	内容	学習内容 (ねらい)	関	考	表	知	評価規準 評価方法
	あつめる	様々なメディアや人からの情報収集能力						
	とらえる	情報の選択・分析	世界の国々の時差を知るとともに、時刻の言い方を知る。 さまざまな動作の言い方を知る	○				時計の読み方にふれ、世界の国々の時差を時計盤で表現しようとする。教科書に載っている動作だけでなく興味がある動作を知ろうとする。
	まとめる	情報の加工と編集	ALT の1日の生活の話聞き、理解する。	○			○	ALT の1日の生活を聞いてさまざまな文化の違いを知ろうとする。
	伝える	目的や意図に応じて、様々な形でプレゼンテーションする	自分の生活について紹介する。			○		『自分の1日』や『理想の1日』をジェスチャーなどを使って伝えようとする。
	交流する	人と対話し練り上げる	自分で考えた『理想の1日』を紹介する			○		友だちの『理想の1日』を聞いて理解を深めようとする。
	振り返る	自分の情報活用について振り返る	振り返り					

交流する	クイズ“誰の1日でしょう”を開く。		<ul style="list-style-type: none"> ・1グループずつ、前で発表させる。 ・伝わらないときは、ジェスチャーなどを交えて伝えさせる。 ・他のグループは、発表を聞く態度に注意させる。
振り返る	振り返り		<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標をもう一度確認し、それに沿って振り返って書くよう支援する。

1.5 実践授業を終えて成果と課題

<成果>

○お世話になっているALTの実生活の様子を見聞きしながら説明を聞くことで、外国と日本の生活の違いをイメージすることができた。

<課題>

- 時間の関係上、クイズ“誰の1日でしょう”は画用紙に発表内容を書かせたが、ICTを活用することで多くの人に伝えやすかった。
- 事前に打ち合わせが必要で、時間確保に追われた。

第6学年 社会科・総合科学習指導案

箕面市立豊川北小学校

指導者 井田淳子

- 1 日時 3月5日(水)5時間目(13時45分～14時30分)
- 2 学年・クラス 6年1組(35名 男子19名 女子16名)
- 3 場所 コンピュータ室

4 研究仮説

- ・情報活用の段階を意識した指導計画を立て、それぞれの段階に応じた具体的手立てを組み込んだ授業を、発達段階に応じて、経年で指導していくことで義務教育終了段階で社会に出て活用できる情報活用能力の育成が図れるだろう。
- ・教科書やその他の図書、資料集という材料に加えて、インターネットを利用することにより、より自分が必要としている情報に近い情報を手に入れやすくなり、学習の理解を深めることが一層容易になるであろう。

5 授業仮説

各国の宣伝を作り、発表内容それぞれに見出し(文字数制限あり)を考えさせることで、伝えたい内容を意識した、情報を収集する活動、情報をまとめる活動ができるだろう。

- 6 単元名 世界のなかの日本とわたしたち

7 単元設定の理由

(児童について)

2学期、アメリカ現地校からの転入生を迎え、自分たちにとってあたりまえと思っていることが当たり前ではない、違う世界があるということに、関心を強く抱いている。一方で、名前が変わっている、顔立ちが違っている等で、他学年の児童をひやかしたり、からかったりする問題もあった。毎日の暮らしの中で、「外国とかかわりのないことがほとんどない」にもかかわらず、「日本のやり方が当然」「それと違うのは変なことだ」「日本のやり方にみんなが合わせるべきだ」と、子どもたちの考えが凝り固まってしまっていないか、という思いが、子どもたちを見ていると湧いてくる。自分が「あたりまえ」と思っていることが、決して「あたりまえ」ではないということ。違いがあることを知った上で、その違った価値観を尊重できる心を育てていきたい。

(教材について)

外国を調べる活動は、本学級の子どもたちが興味関心をもって意欲的に取り組める内容だと考える。毎日の暮らしの隅々にまで入り込んでいる外国、歴史の学習でも数多く登場してきた外国、地球儀や地図帳を使っでの活動を行い、これまでに継続的に目にしてきた外国等々。しかしながらそれらの外国についてどこまで深く知っているだろうか。自分たちの生活とどうしてかわるようになってきたのかその原因や背景を知ろうとしてきたであろうか。今後、日本の中心となって社会に出て活躍しなければならない6年生が、活躍するために必要なことは何かを子どもたちは「自分事」として考えてきているであろうか。こうした点に注目して本単元「世界の中の日本とわたしたち」をとらえていかなければならないであろう。

(指導にあたって)

「情報活用能力育成のあり方に関する研究部会」の公開授業である。このことを意識し、「情報収集」および「情報をまとめる」能力を高められる活動を子どもたちに設定したいと思う。

子どもたちには「外国をクラスのメンバーに宣伝するコマーシャルをつくる」という課題を与える。その際には、次のような点に注意させる。

- ・外国を一か国選ぶ。
- ・その外国を他のメンバーに宣伝する。
- ・宣伝する際には…パソコンでプレゼンテーションを行う。

…プレゼン画面1枚につき、キャッチフレーズとして使ってよい文字数は「15文字以内」とする。

- ・最後に、クラスのメンバーが「どのコマーシャルが一番心に残ったか」を評価するだけでなく、自分のコマーシャルをお家の人にも伝える活動をする。

評価されることを念頭に置くので、発表する段階では、地図や写真、データなど、様々な資料を準備する必要があるだろう。この授業を通して、児童は、「必要な情報は何か」を厳選し、資料を効果的に使い聞き手に伝わりやすい発表を考え、見出すことができるだろう。

8 単元目標

我が国の国際交流や国際協力の様子、国際連合の働きについて、社会的事象を具体的に調査するとともに、各種の基礎的資料を効果的に活用し、外国の人々の文化や習慣の違いにふれ、その違いを理解し、尊重することが外国の人々とともに生きるうえでたいせつであることを考える力、調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする。

- 9 評価規準
- 関心・意欲・態度…我が国の国際交流や国際協力の様子について関心を持ち、意欲的に調べることを通して、異なる文化や習慣を理解し合うことや世界平和の大切さを考えようとしている。
 - 思考・判断・表現…我が国の国際交流や国際協力の様子について学習問題や予想、学習計画を考え表現し、調べたことをもとに、異なる文化や習慣を理解し合うことが大切であることを考え、調べたことや考えたことを適切に表現している。
 - 観察・技能……………我が国の国際交流や国際協力の様子について、社会的事象を具体的に調査するとともに、地図や地球儀、年表などの各種の基礎的資料を効果的に活用して具体的に調べた過程や結果をノートや作品にまとめている。
 - 知識・理解……………我が国と経済や文化などの面につながりが深い国の人々の生活の様子や、外国の人々と異なる文化や習慣を理解し合うことをとらえている。

10 指導計画 評価計画（評価の重点化）（取組まない段階は抜き、2段階で取組む場合は追加）

時数	情報活用能力の分類	内容	学習内容（ねらい）	関	考	表	知	評価規準 評価方法
3	あつめる	様々なメディアや人からの情報収集能力	<ul style="list-style-type: none"> ・TVCMから短い時間で伝えたいことを伝える方法をさぐる。 ・キャッチフレーズについてさぐる。 ・本やインタビュー、主にインターネットを通して、調べたい国の情報を集める。 	○				関心をもって、情報を探している。
2	とらえる	情報の選択・分析	<ul style="list-style-type: none"> ・集めた情報から、発表する内容を選ぶ。 ・内容に合わせて、必要な資料を作る。 		○			何を伝えたいのかについてグループで話し合っている。
3	まとめる	情報の加工と編集	<ul style="list-style-type: none"> ・伝えたいことの要点に合わせたキャッチフレーズを工夫する。 ・プレゼンテーションにまとめる。 			○		効果的な見出しを考えることができる。
1	伝える	目的や意図に応じて、様々な形でプレゼンテーションする	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスで発表する。 			○		資料を効果的に使って発表している。
1	交流する	人と対話し練り上げる		○				
1	振り返る	自分の情報活用について振り返る	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の活動について感想を書き、交流する。 		○			ワークシート

11 本時の目標

- ・伝えたいことの要点をまとめ、効果的なキャッチフレーズを考える。

12 本時 評価の観点 評価規準

- ・調べた情報をもとに、伝えたいことを伝えられる効果的なキャッチフレーズを考えることができる。

13 本時の展開

情報活用 能力の分類	教師の発問・指示	(予想)児童・生徒の反応・ 活動	○指導上の留意点 【評価：評価方法】
<p>とらえる</p> <p>まとめる</p> <p>伝える</p>	<p>課題 調べた情報から、興味がわく、わかりやすいキャッチフレーズを作ろう。</p> <p>見通し 「興味がわく、わかりやすい」ためには、どんなことに気を付けて考えたらいいでしょう。</p> <p>考える 調べた情報に見出しをつくるために、一番大切だと思う文に線をひきましょう。キーワードに丸印をつけよう。 ・要点、興味深さを考えさせる。</p> <p>選んだ情報に15字以内でキャッチフレーズをつけよう。 ・選んだ文、キーワードを工夫してつなげる。 ・興味を引くような表現に改めさせる。 (驚き、ドキドキ、わくわく、不思議など)</p> <p>プレゼンテーションでキャッチフレーズを作ってみよう。</p> <p>交流 できたものを見てみましょう。</p>	<p>・短い文章 ・何が言いたいのか一言でわかる ・簡単な言葉</p> <p>○なぜそれが必須情報なのか、理由を考えながら相談し、選ぶ。 ○調べた内容のどの部分を一番強調して伝えたいのか考える。</p> <p>○伝えたい内容を短く端的に伝える文を書く。 ○興味を引く、目を引くような表現を相談し考える。</p> <p>○キッズプレゼンテーションでスライドに見出しをつくる。</p>	<p>○指導上の留意点 【評価：評価方法】</p> <p>○一番大切だと思う文に線を引かせ、その文章をなるべく短く表現できるよう大切な言葉を探させる。 [思考] ・理由に合った文、キーワードを選ぶ。(班の資料)</p> <p>[表現] ・内容にあった見出しを書いている。 ・興味を引く見出しになっている。</p> <p>効果的な大きさ、色、字体についても考えたいが、主には次時に指導する。</p>

第4学年 総合的な学習指導案

箕面市立中小学校

指導者 吉村 淳史

1 日時 11月5日

2 第4学年1組 (30名)

3 場所 4年1組教室

4 研究仮説

情報活用の段階を意識した指導計画を立て、それぞれの段階に応じた具体的手立てを組み込んだ授業を、発達段階に応じて、経年で指導していくことで義務教育終了段階で社会に出ても活用できる情報活用能力の育成が図れるだろう

5 授業仮説

図書館の本とインターネットを使って調べ学習を行うことで、情報の取捨選択ができ、情報活用能力が向上するだろう。

6 単元名

福祉調査隊

7 単元設定の理由

(1) 教材観

2学期に入り、人権学習の一環として福祉学習が始まった。その中で、聴覚障害者の方にゲストティーチャーとして来校していただき、お話を聞いたり、ロールプレイを行ったりといった学習を行った。本単元では、それらの学習のまとめとして、聴覚障がい者だけでなく、視覚障がい者や身体障がい者、介助犬の4つに視野を広げ、それらを調べて発表する。

(2) 児童観

本学級の児童は明るく元気な児童が多い。休み時間には、男女の壁なく一緒に遊んでいる姿が特徴的である。運動会の練習では、休み時間にも音楽に合わせて一緒に踊り、お互いにアドバイスをし合う姿が見られた。

学習においては、算数ではわり算の計算方法を「中小校歌 168 番」として歌いながら学習し、それを口ずさみながら計算する姿が見られたり、理科では自然の観察のときに匂いや手触り、聞こえてくる音など五感で観察している様子が見られたりと、意欲的に取り組む児童が多い。一方で、集中力や聞く力に課題が多く、なかなか学習に取り組めない児童や、友達の意見をなかなか聞けない児童もいる。

(3) 指導観 具体的な指導方法を明確に記入

本単元では図書館の本とインターネットを用いて調べ学習を行う。本とインターネットの情報を比較しながら、情報の真贋を育成させる。また、情報量の差や、情報の新しさなどについて学習することで、図書館の本とインターネットそれぞれの良さについて学習させたい。

8 単元目標

福祉に興味を持ち、調べて新聞にまとめることができる。

インターネットと本のそれぞれの良さが分かる。

9 評価規準 4 観点（関心・意欲・態度 思考・判断・表現 技能 知識・理解

国語（関心・意欲・態度 話す・聞く能力 書く能力 読む能力
言語についての知識・理解・技能）

算数（関心・意欲・態度 数学的な（見方や）考え方 表現・処理
知識・理解）

体育（関心・意欲・態度 思考・判断 技能 知識・理解）

英語（コミュニケーションへの関心・意欲・態度 表現の能力 理解の能力 言語
や文化についての知識・理解）

時数	情報活用能力の分類	内容	学習内容（ねらい）	関	考	表	知	評価規準 評価方法
4	あつめる	様々なメディアや人からの情報収集能力	図書の本やインターネットを用いて、それぞれのテーマに沿って調べる。	○				テーマに興味を持ち意欲的に調べることができる。
2	とらえる	情報の選択・分析	班で調べたことの中から、どの記事を掲載するかを話し合う。	○	○		○	調べた情報の中から、必要なことを取捨選択できる。
4	まとめる	情報の加工と編集	新聞づくり	○		○		得た情報を言葉でまとめ、表現している。
2	伝える	目的や意図に応じて、様々な形でプレゼンテーションする	クラスで発表	○		○		まとめた情報を発表できる。
1	交流する	人と対話し練り上げる	新聞の中で興味を持った内容を発表する。	○	○	○		友だちの新聞について感想を持ち、それを伝えることができる。
1	振り返る	自分の情報活用について振り返る	調べ学習のふりかえりを行う。	○			○	学習してきたテーマに関心を持ち、振り返ることができる。

10 指導計画

評価計画（評価の重点化）（取組まない段階は抜き、2段階で取組む場合は追加）

11 本時の目標

前時で得た情報をもとに、レイアウトを考えたり、情報を取捨選択したりしながら、情報をまとめることができるようになる。

12 本時 評価の観点 評価規準

- ・調べた情報の中から、必要なことを取捨選択できる。

1.3 本時の展開

情報活用 能力の分 類	教師の発問・指示	(予想)児童・生徒の反 応・活動	○指導上の留意点 【評価：評価方法】
とらえ る	<p>・前時までの学習内容を振り返らせる。</p> <p>「これまで調べてきた内容のなかから、新聞に載せる内容と、載せない内容を班で相談して決めましょう。」</p> <p>次時の学習で、得た情報をまとめ新聞づくりに取り組んでいくことを伝える。</p>	<p>・自分が調べたものの中から、一番伝えたいことを選ぶ。</p> <p>。</p>	<p>・レイアウトを考え、絵を載せたり、文を載せたりを取捨選択することができる、。</p>

1.4 板書計画（場の設定）

1.5 実践授業を終えて成果と課題

実践の中で「同じことを調べているのにデータが違う」という子供の気づきがあった。その際には、「どちらが正しいと思う？」という観点から、情報ソースの正確さとデータの新旧について学習した。

情報を受ける側の立場で考え、そこから新聞づくりを通して情報を発信する側の立場となって、どのようなことに気を付けなければならないかについて考えることができた。

しかし、インターネット上に載せられている情報を無条件に信じる姿や、書かれていることをそのまま丸写しする姿など、情報の取捨選択や真贋を見極めることに課題が見られた。

第4学年 総合的な学習指導案

箕面市立豊川南小学校

指導者 中山 由香利

1 日時 9月11日

2 第4学年・全クラス (141名)

3 場所 多目的室 教室

4 研究仮説

情報活用の段階を意識した指導計画を立て、それぞれの段階に応じた具体的手立てを組み込んだ授業を、発達段階に応じて、経年で指導していくことで義務教育終了段階で社会に出ても活用できる情報活用能力の育成が図れるだろう

5 授業仮説

スカイプでもインタビューするという情報収集手段を授業に組み込むことで、情報収集能力の育成が図れるだろう

6 単元名

たいせつなみんなのいのち Life is wonderful.

7 単元設定の理由

(2) 教材観

東日本大震災について学び、その学習を通して自分たちの防災意識を強めていくことを目標とする。実際に震災時ボランティアをされていた方の話を聞き情報を収集する。それだけではなく、現地の行政職の方にスカイプでインタビューをし、自分たちの学習に必要な情報を自分たちから質問をする形式で情報収集していく。この学習を通して情報収集能力、情報選択・分析能力を培う契機としたい。

(2) 児童観

本学年は、素直で前向きに活動する子どもが多く、授業中は積極的に学習に取り組む姿が見られる。話を聞く態度も身についており、言われたことについては、最後までがんばって取り組むことができる。

一方で、話し手の思いや意図を捉えて自分の考えを重ねたり、自分で決めて行動することや状況に応じて全体に提案したりすることが苦手な一面がある

今回の授業を通して、自分が必要と思う情報を積極的に収集し、選択・分析できる能力を培ってほしい。

(3) 指導観 具体的な指導方法を明確に記入

東日本大震災については、新聞、書物など情報は多様に存在する。このテーマについてを指導するにあたって、ゲストティーチャーの方に話を聞き、自分たちの必要な情報を選択し収集するインタビュー形式の学習を取り入れる。この活動によって、子どもたちに単元目標を達成させることができるだろうと考える。

8 単元目標 東日本大震災について学び、得た情報を生かしながら自分たちの防災意識を高めていくことを目標とする。

9 評価規準 4 観点（関心・意欲・態度 思考・判断・表現 技能 知識・理解）

10 指導計画 評価計画（評価の重点化）

時数	情報活用能力の分類	内容	学習内容（ねらい）	関	考	表	知	評価規準 評価方法
1	あつめる	様々なメディアや人からの情報収集能力	ボランティア経験のある方にインタビューを行い、情報を得る。	○				テーマに興味を持ち話を聞くことができる。
1	とらえる	情報の選択・分析	一時で得た情報をもとに、さらに詳しく知りたい情報や質問などを、スカイプを使いインタビュー形式で話を伺う。	○	○			テーマに興味を持ち、自分の求めている情報を言葉にし、インタビューすることができる。
4	まとめる	情報の加工と編集	得た情報を元に冊子作り	○	○			得た情報を言葉でまとめ、表現している。
2	伝える	目的や意図に応じて、様々な形でプレゼンテーションする	クラスで発表	○		○		まとめた情報を発表できる。
1	交流する	人と対話し練り上げる	班で情報交流	○		○		班で交流し意見をもらいながら、自分の考えを練り上げることができる。
2	振り返る	自分の情報活用について振り返る	冊子をもとに振り返り	○			○	学習してきたテーマに関心を持ち、振り返ることができる。

11 本時の目標

前時で得た情報をもとに、質問を考えたり、情報を取捨選択したりしながら、情報をまとめることができるようになる。

12 本時 評価の観点 評価規準

得た情報の中から自分の学習に必要なものを取捨選択し、情報をまとめることができる。

1.3 本時の展開

情報活用 能力の分類	教師の発問・指示	(予想)児童・生徒の反応・ 活動	○指導上の留意点 【評価：評価方法】
あつめるとらえる	<p>・前時までの学習内容を振り返らせる。</p> <p>「今まで学習をもとに、もっと知りたいこと疑問に思っていることについて、質問していきましょう。」</p> <p>次時の学習で、得た情報をまとめ冊子作りに取り組んでいくことを伝える。</p>		<p>・ゲストティーチャーのかたの言葉と、子どもの質問をうまくつなげるように声をかけていく。</p>

1.4 実践授業を終えて成果と課題

スカイプを使い離れた地とリアルタイムで繋がることは、子どもたちにとって新鮮で興味深い経験であった。情報収集に対しての意欲も高まりインタビューの時間も集中力を途切れさせることなく取り組んでいました。

今後の課題としては、校内の接続状況が不安定であることが挙げられる。映像や音声途切れたりすることがあり、子どもたちが情報を聞き漏らす場面も見られました。今後、今回のような継続したインターネット接続の環境が必要な場合、ワイファイ接続の設定状況など見直す必要があると感じました。

第 1, 5, 6 学年 国語科学習指導案

箕面市立萱野北小学校

指導者 丸山 智美

- 1 日時 2013年1月15日(水)
- 2 学年・クラス 1年生1名、5年生1名、6年生1名(3名)
- 3 場所 支援学級教室
- 4 研究仮説
情報活用の段階を意識した指導計画を立て、それぞれの段階に応じた具体的手立てを組み込んだ授業を、発達段階に応じて、経年で指導していくことで義務教育終了段階で社会に出て活用できる情報活用能力の育成が図れるだろう。
- 5 授業仮説
着目すべき点に吹き出しを付けた写真という手だてを提示することにより、情報を活用した聞く力・話す力の育成をはかれる。
- 6 単元名 はなしたいなききたいな

7 単元設定の理由

(1) 教材観

重点的指導事項は、A 話す・聞く (1) エ「大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと」である。

言語活動は、A (2) ア「経験の報告をしたり、それを聞いて感想を述べたりすることに対応する。」

【教材の系統 教材に対する認識や理解】

本教材では、したこと、そのときの様子、感想を話す学習をし、聞き手は共感的に聞き、質問や感想を述べることを学ぶ。

(2) 児童・生徒観 学級集団の実態、気になる子どもの実態 レディネス

日々の活動の中で気持ちの学習をし、今の自分の気持ちについて話をする機会は多くもっている。休みの日にしたことを発表することもあるが、個々によって自分の言葉でうまく話すのが苦手な児童は、友だちの発表を聞くのみで、自分のことをうまく話せないまま時間を過ごすこともある。話すことが得意な児童もしたことのみのお話になるなど、相手に伝わりづらい。また、質問の内容も話の内容にそぐわないことを質問しがちなので、写真を手だてに話したり聞いたりすることのきっかけ作りとしたい。また、吹き出しをつけることにより、より話し手の気持ちが視覚的にもわかる手がかりとしたい。

(3) 指導観

話すことや聞くことが苦手な児童に、吹き出し付きの写真を手だてとして提示することにより話しやすく、質問内容も考えやすくすることができるであろうと考えている。

8 単元目標

- ・出来事の様子とその時の気持ちをみんなの前で話す。
- ・話を聞いて感想を述べたり質問したりする。

9 評価規準

(関心・意欲・態度)

- ・休みの日のスピーチを、楽しんで話したり聞いたりしようとしている。

(話す・聞く能力)

- ・話したい出来事を選んでいる。
- ・出来事の様子とその時の気持ちを整理して話している。
- ・全員に聞こえるような声の大きさではっきりと話している。
- ・友だちの話を興味を持って聞き、感想を述べたり質問したりしている。

10 指導計画 評価計画 (評価の重点化) (取組まない段階は抜き、2段階で取組む場合は追加)

時数	情報活用能力の分類	内容	学習内容 (ねらい)	関	考	表	知	評価規準 評価方法
	あつめる	様々なメディアや人からの情報収集能力	休みの日に行った場所や、何かに取り組んでいる様子の写真を保護者の協力を得て家で撮る。もしくは絵日記を書く。	○				話すこと的话题を見つけるために、写真を撮っている。
	とらえる	情報の選択・分析	撮った写真の中から、話したいものを選ぶ。		○			どんなことを話すとよいかを考えている。
	まとめる	情報の加工と編集	写真の中の着目すべき点に吹き出しを付ける。その時の気持ちを書く。		○			特に話したいことを考えている。
	伝える	目的や意図に応じて、様々な形でプレゼンテーションする	写真を電子黒板に映し、その時したことや様子、感想を発表する。			○		休みの日のことを楽しく話そうとしている。 休みの日にしたことやその時の気持ちをはっきりと話している。
	交流する	人と対話し練り上げる	友だちの発表を聞いて質問する。		○		○	友だちの話を楽しく聞こうとしている。 友だちの話を興味を持って聞き、質問している。
	振り返る	自分の情報活用について振り返る						

11 本時の目標

- ・写真を見て、話することができる。
- ・友だちの話を聞いたり、吹き出し付きの写真を見たりすることで話の内容に関連した質問することができる。

1.2 本時 評価の観点 評価規準

【関心・意欲・態度】休みの日のスピーチを楽しんで話したり聞いたりしようとしている。

【表現・技能】吹き出し付の写真を見て、話をするができる。

【知識・理解】友だちの話を聞いて、質問をすることができる。

1.3 本時の展開

情報活用 能力の分類	教師の発問・指示	(予想)児童・生徒の反応・ 活動	○指導上の留意点 【評価：評価方法】
伝える	<ul style="list-style-type: none"> 今日は撮ってきた写真や絵を電子黒板に映して、何をして、どうしたのか、その時はどんな気持ちだったのかをお話してもらいます。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の写真を見て、何の写真か思い出す。 お話することを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 順番に電子黒板に写真を映して、誰の写真か確認させる。 何をして、どうして、どんな気持ちだったのか話すような助言を入れる。
交流する	<ul style="list-style-type: none"> 写真を見てお話することを考えて下さい。→自力活動 順番に発表してもらいます。→全体交流 今のお話を聞いて、思ったことや聞きたいことはありませんか。→他者評価・全体交流 	<ul style="list-style-type: none"> 発表する。 友だちの発表を聞く。 質問することを考える。 質問する。 	<ul style="list-style-type: none"> 黒板に、①ぼくは〇〇をしました。②どんなことがあったか③思ったことと言った話す手だてを書いておく。 それでもうまく話せない児童には、教師が助言して道筋を立てる。 黒板に、①思ったこと②詳しく聞きたいことと言った質問する手だても書いておく。

1.4 板書計画 (場の設定)

きくととき ① おもったこと ② くわしくききたいこと	はなすとき ① ぼくは 〇〇をしました。 ② どんなことがあったか ③ おもったこと
-----------------------------------	---

15 実践授業を終えて成果と課題

写真があることで、聞く側の児童もイメージしながら話を聞くことができ、話の内容に即した質問もすることができた。

また、話す側の児童も、写真や吹き出しを手掛かりに、より聞き手にわかりやすい話をすることができた。

漠然と話すよりは、写真という視覚的な手掛かりがあることで、話すことや聞くことが苦手な児童にとっては有効な手立てとなったと考えられる。

第5学年 理科学習指導案

箕面市立とどろみの森学園

指導者 國廣 幸一

- 1 日時 10月17日(木) 1時間目
- 2 学年・クラス 5年1組 (22名)
- 3 場所 教室(実験はグラウンド)

4 研究仮説

情報活用の段階を意識した指導計画を立て、それぞれの段階に応じた具体的手立てを組み込んだ授業を、発達段階に応じて、経年で指導していくことで義務教育終了段階で社会に出ても活用できる情報活用能力の育成が図れるだろう

5 授業仮説

流れる水の様子を、デジタルカメラを使って動画や静止画を撮り発表することで、興味・関心をもって水の流れる様子をとらえることができ、課題解決に必要なものを選ぶという力の育成が図れるだろう。

6 単元名

流れる水のはたらき

7 単元設定の理由

(1) 教材観

本単元は、小学校学習指導要領解説理科編の第5学年「B生命・地球(3)流水のはたらき」において「地面を流れる水や川の様子を観察し、流れる水の速さや量による働きの違いを調べ、流れる水の働きと土地の変化の関係についての考えをもつことができるようにする」ことをねらいとしている。児童は日ごろ目にする川も、場所によって様子が違うことは気づいているが、どこが違うのか、どうして違うのかを考えることはないだろう。その違いについて、流水実験を通して自分たちで実験方法を考え、確かめ、考えをまとめていくことのできる単元であると考えている。

ここで培った見方や考え方は、6年の「土地のつくりと変化」の単元へつながっていく。

(2) 児童・生徒観

学級園に野菜を植えるときにはくわやスコップを取り合うほど、男女とも体をつかって作業することや土を触ることを楽しめるクラスである。こだわりの強い児童も複数いるが、グループ活動では協力して取り組むことができている。

(3) 指導観

実際の川を観察しに行くことが難しいため、人工の山を作り、人工の雨を降らせることで川を流させる。この体験をさせることで、疑問や気づきが生まれ、興味・関心をもって取り組ませたい。

そこで、デジタルカメラを用いることにより、流れる様子を動画や静止画としてみんなに発表でき、全体共有することができる。どこの場面を伝えるのか考えながら撮ることで、さらに興味・関心をもって取り組めるだろう。

また、自分たちの発表に必要なものを撮り、選ぶことで、よりの確に川の様子を観察し、流れる水のはたらきを考えることができるだろう。

8 単元目標

地面を流れる水や川の様子を観察し、流れる水の速さや量による働きの違いを調べ、流れる水の働きと土地の変化の関係についての考えをもつことができるようにする。

9 評価規準

- ・川のように興味・関心をもち、流れる水のはたらきを自ら調べようとしている。
(関・意・態)
- ・流れる水と土地の変化について予想をもち、条件に着目して実験を計画し、表現している。
(思・表)
- ・流れる水の速さや量と流れる水のはたらきとの関係について、条件を整えて実験を行い、その過程や結果を記録している。(観察・技能)
- ・流れる水には、侵食・運搬・堆積のはたらきがあることを理解している。(知・理)

10 指導計画 評価計画 (評価の重点化) (取組まない段階は抜き、2段階で取組む場合は追加)

時数	情報活用能力の分類	内容	学習内容 (ねらい)	関	思	技	知	評価規準 評価方法
2	あつめる	様々なメディアや人からの情報収集能力	<ul style="list-style-type: none"> ・実験計画を立てる。 ・機器を正しく扱い、撮りたいシーンを撮る。 	○				興味・関心をもち、調べている。 (行動観察・ノート) 機器を正しく扱うことができる。 (行動観察) 自分に必要な情報を選ぶことができる。 (行動観察)
	とらえる	情報の選択・分析	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットPCを使って、撮った写真や動画を見て、課題解決に必要なものを選ぶ。 		○			
1	伝える	目的や意図に応じて、様々な形でプレゼンテーションする	撮った写真や動画を使って、工夫した点や見てほしい点を伝えることができる。		○			写真や動画を使って、伝えたい場面を説明することができる。 (発表)

11 本時の目標

計画した実験を行い、その過程や結果をデジタルカメラで記録し、必要な情報を得ることができる。
発表する時に必要な動画や写真を選ぶことができる。

12 本時 評価の観点 評価規準

デジタルカメラを正しく扱い、操作することができる。(技)

A: 場面によって写真・動画を使い分けすることができる

C: 使い方がわからず、あやまった操作をしている。

デジタルカメラのデータを、タブレットPCに保存することができる。(技)

A: フォルダを分け、名前をつけたりグループ分けできたりする。

C: 保存方法を理解していない。

撮った写真や動画から、自分に必要な情報を選ぶことができる (思)

A: 発表することを考えて、選んでいる。

C: 目的を持たずに選んでいる。

1.3 本時の展開

情報活用 能力の分類	教師の発問・指示	(予想)児童・生徒の反応・ 活動	○指導上の留意点 【評価：評価方法】
<p>あつめる</p> <p>とらえる</p>	<p>流れる水には、どんなはたらきがあるのだろう。</p> <p>「実際に土で山を作り、水を流してみます。気づいたことなどを写真や動画を使って全体に発表します。」</p> <p>・<u>一人タイム</u> 予想ややってみたいことをノートに書かせる。</p> <p>・<u>グループタイム</u> 実験方法を考えお互いに確認し、準備物を考えノートに記入させる</p> <p>班ごとに準備物が書けたら、実験場所（グラウンド）に出て実験準備をさせる</p> <p>時間で区切り、実験を終わらせる片づけをさせてから教室へ戻らせる</p> <p>保存場所を指定し、撮れた写真や動画を見て、班で意見交流させる。</p> <p>班ごとに、発表に向けてデータを選ばせる</p>	<p>・準備物を用意し、計画通りに山を作る</p> <p>・水を流す前と後を記録する</p> <p>・水を流しているときは、動画を使う。</p> <p>・ポイントとなるところはズームで撮ったり、近づいて撮ったりする</p> <p>・タブレット PC とデジタルカメラを、USB コードを使って接続する</p> <p>・ファイルを保存する</p> <p>・発表に必要なものを選ぶ。</p>	<p>必要と思われるものを出させる</p> <p>デジタルカメラの使い方や注意を全体で確認する 全員が1枚は撮るよう指示しておく</p> <p>撮った本人に再生させて撮れ具合を確認する（技）</p> <p>計画通り作れているか、確かめたいことを確認後、流水させる</p> <p>タブレット PC に接続させ、指定の場所にファイルを保存させる（技）</p> <p>班ごとに、必要なファイルを選んでいるか確認する（思）</p>

1.4 実践授業を終えて成果と課題

自分たちで計画し体験的に確かめることで、どの児童も積極的に取り組んでいた。デジタルカメラの扱いは、時間の最初は撮るのに慣れるため試しに友だちを撮ってみたり、ズーム機能を使ってみたりしていたが、いざ流水するというときには、どの班も扱いには慣れていた。「こう流すから、この角度から撮ってね。」「ここがおもしろいことになってるよ！ここ撮って！」など、声かけも盛んだった。しかし、流水は一度きりとの指示だったので、撮り終えて教室に戻り記録したものを確認すると、こう撮ればよかったとか、もっとこうしたいなどの意見が出て、結局もう1時間使い確かめた。2回目は、前回はふまえ、より水のはたらきにせまる観察ができていた。

撮りたいものが撮れていた班は、発表に必要なものはすぐに選べていたが、あまり納得のいくものが撮れなかった班は、それに一番近いものを選んで、言葉や図や絵などで補足したらどうかと助言した。技能的に撮れなかった班がいくつかあったので、回数を重ねることが必要だと感じた。

第3学年 英語科学習指導案

箕面市立第一中学校

指導者 鈴木 俊弘

1 日時 : 平成25年10月※※日

2 学年・クラス : 3年A組 Basic class (17名)

3 場所 : 英語少人数教室

4 研究仮説

情報活用の段階を意識した指導計画を立て、それぞれの段階に応じた具体的手立てを組み込んだ授業を、発達段階に応じて、経年で指導していくことで義務教育終了段階で社会に出て活用できる情報活用能力の育成が図れるだろう。

5 授業仮説

関係代名詞の導入という、2文をつなげる方法

(We need a person. + He speaks English. → We need a person who speaks English.)

を示すことが多いが、関係代名詞を用いた文は長く複雑になりやすいので、まずは慣れ親しむためにインターネットと有名人を取り上げて、慣れた後で実際に文を作るという展開にする。

6 単元名 : 関係代名詞 (主格)

7 単元設定の理由

(1) 教材観

学習指導要領では「関係代名詞を扱うに当たっては、活用して定着を図るために授業時数が増加されているといった改訂の大きな方向性を踏まえながら、過度に困難なものや複雑なものに偏ることなく、適切なものを扱うことが重要である」とされている。しかし Basic の生徒のほとんどが後置修飾という仕組み自体を苦手としている。そのため「活用して定着を図る」には、関係代名詞句を考え出したり発話したりするゲームなどで導入すれば、楽しみながら発話するだけでなく理解の練習にもなると考え今回設定した。

(2) 児童・生徒観

Basic class は、英語に限らず他教科においても学力の定着が難しい生徒が多い。そのため初めから教科書やプリントを使用したアプローチではすぐに飽きが出てしまうため、ゲームを導入するなど生徒の意欲を引き付けてから、反復練習を行い、できたという達成感を持たせられるよう努めている。

(3) 指導観

関係代名詞で始まる節は、語数の多い長い後置修飾節を生み出してしまうので、文の理解が特に難しく感じられがちであるが、関係代名詞を知らずして、入試問題や長文読解に対応できない。後置修飾という仕組み自体を苦手としている生徒が多いが、英語嫌いとなって学ぶ意欲が失われないよう、親しみやすい内容を導入とし、理解できたという達成感が持てる内容を心掛けたい。

8 単元目標

- ・関係代名詞 **who** の用法を理解し、英文を完成させる。
- ・関係代名詞 **who** を用いて、有名人の説明文を完成させる。
- ・グループ活動として、各グループに用意してあるパソコンからの情報をもとに、英文を完成させる。

9 評価規準

- ・コミュニケーションへの関心・意欲・態度

意欲的にインターネットを使用して情報を得ようとして取り組んでいる。積極的に役割を代わり、グループ内の作業が円滑に進むよう取り組んでいる。他グループの発表をきちんと聞こうとしている。

- ・表現の能力

発音やイントネーションに注意し、相手に伝わるよう大きな声で発言しようとしている。

- ・理解の能力

関係代名詞の入る位置を正しく理解し、適切な文を作ることができる。

- ・言語や文化についての知識・理解

知らない単語をきちんと調べることができる。検索した人物について様々な情報を収集することができる。

時数	情報活用能力の分類	内容	学習内容（ねらい）	関	表	理	知	評価規準 評価方法
	あつめる	様々なメディアや人からの情報収集能力	調べたい人物名を入力し、検索をかける。	○				意欲的に情報を得ようとして取り組んでいる。
	とらえる	情報の選択・分析	どのサイトがより早く情報を得ることができるかを知る。				○	得た情報が正しいものかどうか確認できる。
	まとめる	情報の加工と編集	情報をもとに、関係代名詞 who を用いて、英作文する。				○	関係代名詞の入る位置を正しく理解し、適切な文を作ることができる。
	伝える	目的や意図に応じて、様々な形でプレゼンテーションする	完成させた英文を発表する。	○	○			発音やイントネーションに注意し、相手に伝わるよう大きな声で発言しようとしている。
	交流する	人と対話し練り上げる	発表したグループと異なる英文を作成していれば、発表する。	○	○			他グループの発表をきちんと聞こうとしている。
	振り返る	自分の情報活用について振り返る	関係代名詞 who の使い方、後置修飾の仕組みを振り返らせる。				○	自分で復習しやすいようにノートにメモをとれている。

1.0 指導計画 評価計画（評価の重点化）

1.1 本時 評価の観点 評価規準

1つの「評価の観点」について具体的習得目標の設定
 （数値及び具体的記述）（可能な限りA層、B層、C層ごとに設定）

1.2 本時の展開

情報活用能力の分類	内容	指導計画	具体的手立て
あつめる	様々なメディアや人からの情報収集能力	調べたい人物名を入力し、検索をかけさせる。	google、yahooなどのホームページを紹介する。
とらえる	情報の選択・分析	どのサイトがより早く情報を得ることができるかを知る。	得た情報が正しいものかどうか確認する。
まとめる	情報の加工と編集	情報をもとに、記録係が関係代名詞 who を用いて、英作文する。	わからない単語は辞書以外に、パソコンからでも検索できることを告げる。
伝える	目的や意図に応じて、様々な形でプレゼンテーションする	完成させた英文をグループごとに次々と発表する。	
交流する	人と対話し練り上げる	発表したグループと異なる英文を作成していれば、発表する。	
振り返る	自分の情報活用について振り返る	関係代名詞 who の使い方、後置修飾の仕組みを振りかえる。	どのサイトがより早く、効率的に検索できたかを振り返る。

1.3 実践授業を終えて成果と課題

少人数制で basic、standard と習熟別に指導しているため、全く同じ内容を実施することは困難である。

保健体育科学学習指導案

箕面市立第二中学校
指導者 辻尾 翔太

1. 日時：2月5日（火）
2. 学年：3年1組（38名）
3. 場所：
4. 研究仮説

情報活用の段階を意識した指導計画を立て、それぞれの段階に応じた具体的手立てを組み込んだ授業を、発達段階に応じて、経年で指導していくことで義務教育終了段階で社会に出ても活用できる情報活用能力の育成が図れるだろう

5. 授業仮説

インターネットを活用して調べ学習を行うことで、情報を選択する力の育成が図られるだろう

6. 単元名：インターネットや図書館を活用して、薬物の危険性を知る。

7. 単元設定の理由

(1) 教材観

生徒にとって馴染みのない薬物について、自ら調べまとめることで危険性を知り、また伝えられるようにする。

(2) 生徒観

クラスの状況としては、落ち着いたクラスであり、自分たちで注意をしようことができる。支援が必要な生徒もいるが、今回は班学習が中心となるので、班の仲間と協力しながら活動をさせたい。

(3) 指導観

8. 単元目標

薬物乱用の危険性を知る。

9. 評価基準

3観点（関心・意欲・態度、思考・判断、表現）

10. 指導計画 評価計画

時数	情報活用能力の分類	内容	学習内容（ねらい）	関	考	表	評価基準
40分	あつめる	様々なメディアや人からの情報収集能力	・覚せい剤、シンナー、大麻、麻薬について調べる。 ・インターネットを活用して情報を集める。	○			関心・意欲
20分	伝える	目的や意図に応じて、様々な形でプレゼンテーションする	・班ごとに、調べた薬物乱用について発表する（グループ発表）。			○	発表

30分	交流する	人と対話し練り上げる	<ul style="list-style-type: none"> ・調べたものを班の中で交流し、発表に向けてまとめる。 ・班の中で、発表のときの役割分担を決める。 	○	思考・判断
10分	振り返る	自分の情報活用について振り返る	<ul style="list-style-type: none"> ・発表を聞き、わかったこと、気づき、感想をワークシートにまとめる。 	○	思考・判断

1 1. 本時の目標

薬物乱用について意欲をもって調べ学習に取り組むことができる。

1 2. 評価の観点、評価基準（本時）

【保健への関心・意欲・態度】

薬物乱用について意欲をもって調べ学習に取り組む。

1 3. 本時の展開

情報活用能力の分類	教師の発問・指示	生徒の反応・活動	指導上の留意点 【評価：評価方法】
あつめる	<ul style="list-style-type: none"> ・薬物乱用について習ったことを確認する。 ・各班で覚せい剤、有機溶剤、大麻について調べる。 	<p>授業ですでに学んでいるものを答える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班の中での役割分担を決める。 ・インターネットを活用して情報を集める（自力活動、交流活動）。 ・集めた情報を班で交流する（交流活動）。 ・交流で出た意見を画用紙にまとめる（評価活動）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習ったこと覚えているか確認。 ・【薬物乱用 覚せい剤】と入力し、検索させる。 ・必要に応じて、検索するキーワードを教える（机間指導）。 ・必要に応じて助言する（机間指導）。 ・画用紙、ペンの配布、回収。

1 4 実践授業を終えて成果と課題

インターネットを通して、薬物乱用の実態を深く知ることができた。各班の発表を通して、自分が調べたもの以外の実態も知ることができた。成果としては十分に情報活用能力を育成するかどうかは、この1回でどこまでできたのか疑問ですが、使える場面で積極的に取り組んでいきたい。

課題としては、膨大な量の情報をどのように処理するのかを明確に示してあげるべきであると感じました。また、正しい情報の選択という観点でのポイントをもう少し強く抑えるべきだったように感じました。

第三学年 技術科学習指導案

箕面市立第三中学校
指導者 天岸大輔

1 日時 平成25年 2月21日(木) 2限(9:45~10:30)

2 学年 3年B組 (37名)

3 場所 情報教室

4 研究仮説

情報活用の段階を意識した指導計画を立て、それぞれの段階に応じた具体的手立てを組み込んだ授業を、発達段階に応じて、経年で指導していくことによって義務教育終了段階で社会に出ても活用できる情報活用能力の育成が図れるだろう

5 授業仮説

ソフトウェア(デジピクチャープラスプライム)を使用した授業を行うことで、情報機器の活用能力の向上を図るとともに、情報機器活用の興味、関心をもたせる

6 単元名 応用ソフトウェアの活用 (合成写真の作成)

7 単元設定の理由

(1) 教材観 学習指導要領との関連 教材に対する認識や理解、また興味や関心

(2) 児童・生徒観 教材を活用できているかにより、情報機器活用の不得手を把握
自身の能力を発揮できているか

(3) 指導観

写真の合成を行えるソフトウェアを使い、興味や関心を図り、実際にソフトウェアウェアを活用して写真の合成を生徒にみせ認識や理解を図る。(プロジェクターでみせる)
認識や理解の行き届かない生徒に対しては、個別に指導をして単元目標の達成を目指す。

8 単元目標 教材(ソフトウェア)の活用を理解し、情報機器の活用能力を向上させる。

9 評価基準 4観点(関心・意欲・態度 ソフトウェアを使い作品の表現 情報機器の活用能力
ソフトウェアに対する理解)

10 指導計画 評価計画（評価の重点化）

時数	情報活用能力の分類	内容	学習内容（ねらい）	関	考	表	知	評価基準 評価方法
	あつめる	様々なメディアや人からの情報収集能力	ソフトウェアについての理解	◎			◎	説明を理解できているか
	とらえる	情報の選択・分析	題材にあった画像選び		◎	◎		著作権を守れているか
	まとめる	情報の加工と編集	写真と写真を合成			◎		不自然な箇所が少ない
	伝える	目的や意図に応じて、様々な形でプレゼンする	合成した写真を、作品に貼り付けて題材との相互関係をもたせる		◎			
	交流する	人と対話し練り上げる	周囲の友人と、自分の作品を比べて追及させる	◎	◎			
	振り返る	自分の情報活用について振り返る	全員の作品と自分の作品をみせて、自身の能力を理解させる				◎	よくできている作品をみせて、できていない箇所を伝える

1.1 本時の目標 応用ソフトウェアの正しい使い方を理解し、自身の情報活用能力の有無を図らせる。

1.2 本時の展開

	教師の発問・指示	（予想）生徒の反応・活動	指導上の留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶、出欠確認、服装チェック 本時の流れ、保存方法 プロジェクターを使い、本時の模範を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 前を向き、話を聞く 	話を聞くことに集中させる。そうしないとなにもできない
展開	<ul style="list-style-type: none"> 背景にする写真をインターネットから探させる。（著作権フリーの画像のみ）写真が決まったら保存させる。 応用ソフトウェア（デジピクチャープラスプライム）を開かせて、「開 	<ul style="list-style-type: none"> 細かい作業が続くので、質問の嵐 内容の理解できない生徒の対応 まったく違うことを始め 	<ul style="list-style-type: none"> 集中力がないので、何か集中させるための秘策が必要

	く」項目から先ほど保存した写真とあらかじめ用意しておいたクラス写真を合成させる。 ・合成完了できたら、保存させる。 ・合成写真を自分新聞に貼り付けさせて終了。	る生徒への指導	
まとめ	作業が終了している生徒とそうでない生徒も保存させてからシャットダウン。		

1.4 実践授業を終えて成果と課題

集中力の継続が困難ではあるが、作品自体は個性があり非常に面白いものができた。

課題としては、やはり授業時数の欠如があげられる。作業工程をもっとコンパクトにするべきであった。

毎時間作業が終了するように、授業を考案する必要がある。

第2学年 理科学習指導案

箕面第四中学校

指導者 小林 哲也

1. 日時 9月
2. 学年・クラス：2年2組 (34名)
3. 場所：情報教室
4. 研究仮説
情報活用の段階を意識した指導計画を立て、それぞれの段階に応じた具体的手立てを組み込んだ授業を、発達段階に応じて、経年で指導していくことで義務教育終了段階で社会に出ても活用できる情報活用能力の育成が図れるだろう。
5. 授業仮説
班ごとのパソコンよりインターネットを利用し、天気図やアメダスで雲の様子を見ることができると気付く。その後、天気と雲の関係を見出し、班ごとに発表するという活動を授業に取り組むことで情報を集める、とらえる、まとめる、伝える、交流する、振り返るといった力の育成が図れるだろう。
6. 単元名
気象のしくみと天気の変化
7. 単元設定の理由
 - (1) 教材観
小学校4年生において「晴れやくもりなど天気によって1日の気温の変化にはちがいがあること」、5年生において「台風の通り道では、短い時間に多くの雨が降る」というような天気とその影響を学習している。小学校での既習事項をもとに、インターネットを通してリアルタイムでの状況を把握することにより、毎日の生活と大きな関わりがあることを理解させたい。
 - (2) 生徒観
2組の生徒は他のクラスと比べておとなしい生徒が多く、理科にとっても興味をもっている生徒も数人いる。しかしながら、授業においては、やや消極的で発言や、問いかけに対する返答もあまりないクラスなので、発言させたいときは指名してから答えさせるときもある。また、プリント等の自己管理が苦手な生徒も少なくない。
 - (3) 指導観
日本列島の全国各地の天気とそのときの天気図を同時に見せることによって、雲の量や気圧その他の気象条件を黒板に板書するのは、明らかに能率が悪い。教科書の導入に少しだけ出てはいるが、やはりリアルタイムでの全国各地のものを見せてあげると、印象が強く残ると思うし、特に大阪での様子については朝からの天候は体験しているし、現在の様子は窓から空を見ればわかる。さらにこの後どのような天気になるのか等、自分の生活とリンクさせて考えて予想することによって実際の生活と密接に関わっていることを理解させたい。

8 単元目標

観察結果に基づいて、高気圧や低気圧のつくりと天気変化と雲の関係を理解する。

9 評価規準

理科（科学的な思考、知識理解、実験観察の技能・表現、関心・意欲・態度）

10. 指導計画、評価計画

時数	情報活用能力の分類	内容	学習内容（ねらい）	関	考	表	知	評価規準 評価方法
	あつめる	様々なメディアや人からの情報収集能力	インターネットを利用し天気図とアメダスの様子を見る。	○				積極的に情報を集めようとしているか。
	とらえる	情報の選択・分析	低気圧、高気圧の配置と実際の雲のようすを比べる。			○		的確に配置と雲の関係をとらえているか。
	まとめる	情報の加工と編集	班でデータをまとめる。			○		わかりやすくまとめているか。
	伝える	目的や意図に応じて、様々な形でプレゼンテーションする	各班のまとめたことを発表する。	○				わかりやすく発表できているか。他の班の発表をしっかりと聞いているか。
	交流する	人と対話し練り上げる	発表したことについて意見交換をする。				○	意見交換をすることにより理解が深まっていけているか。
	振り返る	自分の情報活用について振り返る	他の班の発表を聞き、自分の班のデータを比較する。		○			本時の取り組みについて正しい方法かどうか検証できているか。

11. 本時の目標

天気と雲の関係について情報を分析するための資料を集め、分析し、理解する。

12 本時 評価の観点 評価規準

- ・意欲的に情報を収集し、分析しようとしているか。
- ・的確に発表できているか。また、他の班の発表をしっかりと聞いているか。

1.3 本時の展開

情報活用 能力の分類	教師の発問・指示	(予想)児童・生徒の反応・ 活動	○指導上の留意点 【評価：評価方法】
あつめる とらえる まとめる 伝える 交流する 振り返る	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の天気は晴れてる日、雲っている日、雨の日などがあるが、何と関係があると思いませんか？ ・どのような方法で確かめられると思いますか？ワークシートに記入しましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・季節によって ・雲の形によって ・雲の場所によって ・教科書を見る。 ・インターネットで調べる。 ・空を見る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に発言しているか。 ・発言が出ない場合はノートなどに書かせる。
集める	<ul style="list-style-type: none"> ・今答えてくれた答えは、すべて正解ですが、今日はインターネットを用いて調べてみましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・班ごとにインターネットを使い、天気図とアメダスを検索する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要なサイトを開いているか。(遊んでいないか)注意して見ておく。 ・PCの操作方法が不安な班には助言する。
とらえる まとめる	<ul style="list-style-type: none"> ・検索できた班は天気と雲の関係を考えてワークシートに書いてみましょう。後で各班の予想を発表してもらいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・天気図とアメダスを見比べて関係を見つける。 ・発表できるように準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・うまく関係を見つけられない班があればヒントを出し、導く。
伝える 交流する	<ul style="list-style-type: none"> ・では発表してもらいます。他の班が発表しているときは静かに聞きましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめたものを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他の班の発表をしっかりと聞いているか。否定していないか。
交流する 振り返る	<ul style="list-style-type: none"> ・他の班の発表を聞いて、各班で話し合ってください。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各班で再び話し合う。 	

1.4 板書計画 (場の設定)

各班の発表内容を表にする。

観察結果を含め個人個人ワークシートにまとめさせる。

1.5 実践授業を終えて成果と課題

自分たちで方法から考えて、リアルタイムでの映像を見ることに興味を持って参加できたと思います。成果としては十分に情報活用能力を育成するかどうかは、この1回でどこまでできたのか疑問ではあるが、また別の機会であればと思います。課題としては1時間ではできないこと(時間がかかりすぎる)だと思うので、もっと短時間で効果のあるやり方を考える必要性を感じました。

第1学年 数学科学習指導案

箕面市立彩都の丘中学校
授業者 吉永 章人

1 日時 平成26年(2014年)2月13日(木曜日)

2 学年・クラス 7年1組・基礎クラス(13名)

3 場所 PC教室1

4 研究仮説

情報活用の段階を意識した指導計画を立て、それぞれの段階に応じた具体的手立てを組み込んだ授業を、発達段階に応じて、経年で指導していくことで義務教育終了段階で社会に出ても活用できる情報活用能力の育成が図れるだろう。

5 授業仮説

統計資料をヒストグラムや度数折れ線・代表値などによって傾向を表すことに、統計情報そのものが信頼できるものかどうか考える手立てを組み込むことで、情報を批判的に汲み取る力の育成が図れるであろう。

6 単元名
資料の活用

7 単元設定の理由

(1) 教材観

小学校算数科と比べて、取り扱う資料が身近なものから社会一般的なものになったり、処理すべき資料も大量になることから、ヒストグラムや代表値などの統計的な手法について理解し、適切な活用や陥りやすい誤りについて学習していく。

(2) 児童・生徒観

基礎クラスは、小学生の既習事項をはじめとして、基礎・基本の定着が難しい生徒が多く、間違っても大丈夫だ、分からないときには質問できるなど、発言しやすい雰囲気につとめている。

(3) 指導観 具体的な指導方法を明確に記入

統計的手法によって大量の資料を整理し、適切な統計処理方法を指導するにあたって、目的や主張に応じた統計処理の仕方を学び、コンピュータを利用して資料の傾向を読み取り発表し合うことによって、子どもたちに目的に応じた統計処理の必要性を学ぶことができるであろう。

8 単元目標

- ・ヒストグラムや代表値、相対度数などの必要性と意味を理解することができる。
- ・ヒストグラムや代表値などを用いて資料の傾向をとらえ説明することができる。
- ・誤差の意味や範囲及び近似値の意味や表し方について理解することができる。
- ・目的や主張に応じて、資料を編集し、考えを発表することができる。

9 評価規準

関心・意欲・態度

様々な事象について資料を収集して整理しグラフを利用して統計的に処理することを通して、意欲的に考えたり判断したりしようとしている。

数学的な見方・考え方

目的や主張に応じて、資料を編集しようとしている。

数学的な技能

資料を度数分布、ヒストグラムを用いて表すことができる。

相対度数、代表値、有効数字を求めたりするなど、技能を身に付けている。

数量や図形についての知識・理解

ヒストグラムや代表値の必要性と意味、相対度数の必要性と意味、誤差や近似値の意味などを理解し、知識を身に付けている。

10 指導計画 評価計画（評価の重点化）（取組まない段階は抜き、2段階で取組む場合は追加）

時数	情報活用能力の分類	内容	学習内容（ねらい）	関	考	技	知	評価規準 評価方法
	あつめる	様々なメディアや人からの情報収集能力	様々な統計データを入手することができる。	○				意欲的にデータを集めることができるか。 (ワークシート)
	とらえる	情報の選択・分析	得た情報の真偽について確認できる。 得たデータを目的を持って整理することができる。				○	データを批判的に扱っているか。(ワークシート) 目的を明らかにしながら、必要なデータを整理しているか。(ワークシート)
	まとめる	情報の加工と編集	度数分布、ヒストグラム、相対度数、代表値、有効数字、近似値について理解し、活用することができる。				○ ○	度数分布、ヒストグラムを理解している。 代表値、有効数字、近似値を求めることができる。(ワークシート)
	伝える	目的や意図に応じて、様々な形でプレゼンテーションする	自分の主張に沿うようなグラフをつくることができる。 グラフをもとに自分の主張をまとめることができる。		○	○		コンピュータで試行錯誤しながら自分の主張に応じたグラフをつくることができる。(ワークシート) 自分で作ったグラフから傾向をよみとり、まとめることができる。(ワークシート)
	交流する	人と対話し練り上げる	グラフから、発表者の主張のほかに読み取れることを発表し合う。		○		○	他者が作ったグラフから読み取れる傾向を考えたり、同じ資料でも読み取れる傾向が異なるケースを理解できる。(ワークシート)
	振り返る	自分の情報活用について振り返る	情報処理とその活用についてふりかえる。	○				情報が加工の仕方によってさまざまな解釈があることを理解し、生活に活かそうとしている。(ワークシート)

11 本時の目標

データの適切な代表値を考える場面で、ヒストグラムの分布の様子を変えると代表値が変わることに着目し、ヒストグラムの分布の様子を調べることを通して、適切な代表値の選び方を考えようとする。

1.2 本時 評価の観点 評価規準

- ・(伝える) ヒストグラムが変化することによって、代表値が変わることを理解したか。
- ・(交流する) ヒストグラムからどの代表値を選べばよいか、理由をつけて考えたか。
- ・(まとめる) データの分布の傾向に応じて、適切な代表値を選ぼうとしているか。

1.3 本時の展開

情報活用 能力の分類	教師の発問・指示	(予想)児童・生徒の反応・ 活動	○指導上の留意点 【評価：評価方法】
まとめる	・データの傾向を表すものとして	・平均値、中央値、最頻	
【課題】適切な代表値の選び方を考えよう			
伝える 交流する	<p>・代表値にはどのようなものがあるかを確認する。</p> <p>・以下の URL にアクセスするように促す。 http://www.kwansei.ac.jp/hs/z90010/sugakuc/toukei/daihyou1/daihyo1.htm</p> <p>・今までのヒストグラムを振り返りながら、分布がどのような形になったときに、代表値がどのように変化するか、ノートにメモしながら、シミュレーションするように促す。</p> <p>・分布の傾向に応じて、代表値が変わることを確認する。</p>	<p>・左右の幅が同じな1つ山にすると、平均値と中央値がほぼ等しくなる。</p> <p>・2つ山にすると、平均値や中央値に差が出る。</p>	<p>・ヒストグラムが変化することで、分布の傾向が変わり、代表値も変わること理解している。(発言・WS)</p> <p>・ヒストグラムをもとに、どの代表値を選べばよいか、理由をつけて考えようとしている。(発言・WS・ノート)</p>
[問題] 平均値と中央値がともに51点である、2つのデータは分布の傾向は同じだといえるだろうか。また、このとき何を代表値として選べばよいだろうか。			
ふりかえる	<p>点を発表するように促す。</p> <p>・小学5年で習った平均値の弱点について振り返り、代表値の適切な選び方について考える。</p>	<p>ると、下のグラフの方が山が広がっている。</p> <p>・1つ山の形になっている。</p>	<p>じて、適切な代表値を選ぼうとしている。(発言・WS)</p>

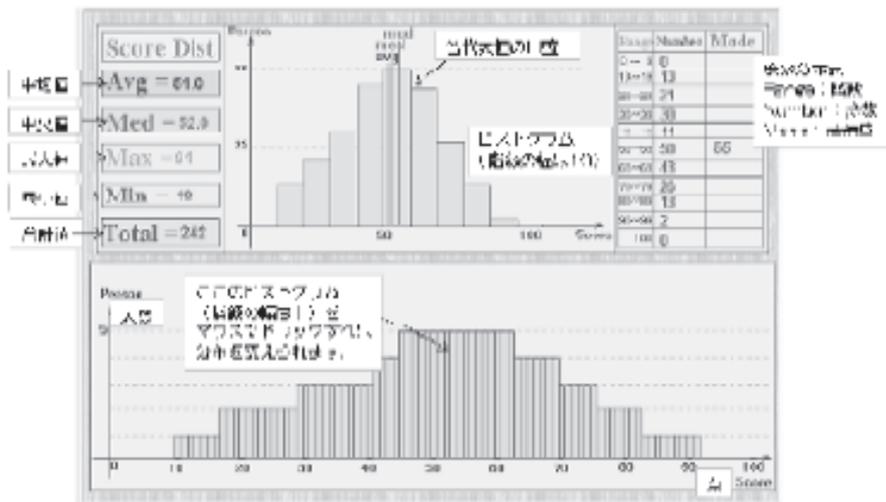
1.4 板書計画（場の設定）

課題 適切な代表値の選び方を考えよう

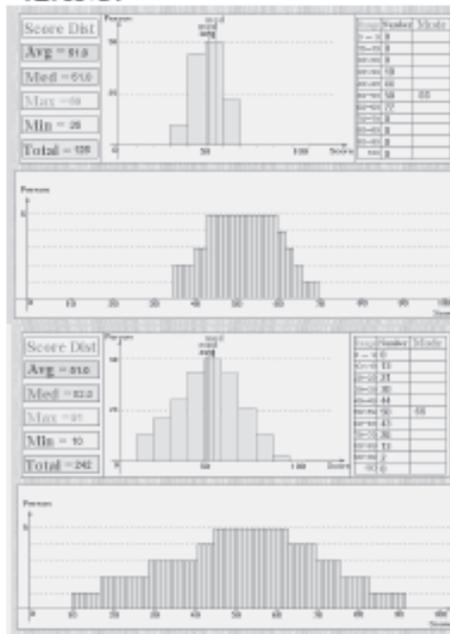
（ 月 日 ）

（やってみる） URL : <http://www.kwansei.ac.jp/hs/z90010/suzakuc/toukei/daihyou1/daihyo1.htm>

このページにあるヒストグラムはある中間考査の分布具合を自由に変えることができます。



(考えよう)



左の2つのヒストグラムは、平均値・中央値はともに51点（前後）。
ということは、2つの分布の傾向は同じといえるだろうか。

Point 7— 代表値の選び方
平均値のデメリット
データの中に、[]が
あれば、影響を受けやすい。
↓
何を代表値として使うかは、
[]や[]
によって判断すべし!

1.5 実践授業を終えて成果と課題

単元のはじまりにあたって、小学校で習ってきたグラフについて、それらのグラフを使う場面や目的、棒グラフとヒストグラムの違いについて、時間をとって、振り返ったことで、ヒストグラムの分布の傾向を「曲線」として捉えるようになった。

今回の授業では、ヒストグラムすなわち分布の傾向が変化することで、代表値がどのように変わるかということが視覚的にシュミレーションできたことで、生徒たちはグラフや代表値の扱い方は、自分の目的や意図に応じて、活用すべきだという意識をより定着させることができた。

課題としては、パソコンを利用するのを苦とする一部の生徒への配慮や、単にシュミレーションするだけでなく「どんな意図でシュミレーションするのか」という本時の課題を明確にしておくこととの大切さを再確認した

